

2026シラバス一覧（社会保育学科専門教育科目）

社会保育学科 専門教育科目			
シラバスNo.	科目名	シラバスNo.	科目名
260040010	感染微生物学	260040490	子育て支援
260040020	公衆衛生学	260040500	子ども理解と教育相談
260040030	医学概論	260040510	児童文化演習
260040040	食生活論	260040520	自然保育実践演習
260040050	子どもの権利	260040530	子どもと言葉
260040060	人権と法	260040540	子どもと環境
260040070	家族社会学	260040550	子どもと音楽表現Ⅰ
260040080	社会福祉概論	260040560	子どもと音楽表現Ⅱ
260040090	社会保育論	260040570	保育者の音楽技能（ギター）
260040095	平和・人権・異文化理解の学際的研究	260040580	子どもと造形表現Ⅰ
260040100	保育システム論	260040590	子どもと造形表現Ⅱ
260040110	保育経営論	260040600	子どもと健康
260040120	社会保育論演習	260040610	子どもと人間関係
260040130	保健医療福祉連携論	260040620	児童文化
260040140	保育原理	260040630	特別な教育的ニーズの理解とその支援
260040150	教育原理	260040640	障がい児福祉
260040160	教職概論（幼稚園）	260040650	障害児支援の基礎理論
260040170	子ども家庭福祉Ⅰ	260040660	知的障害者の心理・生理・病理
260040180	子ども家庭福祉Ⅱ	260040670	肢体不自由者の心理・生理・病理
260040190	子ども家庭支援論	260040680	病弱者の心理・生理・病理
260040200	社会的養護Ⅰ	260040690	知的障害者教育課程論
260040210	保育者論	260040700	知的障害者教育方法論
260040220	幼児教育史	260040710	肢体不自由者教育課程論
260040230	教育法概論	260040720	肢体不自由者教育方法論
260040240	生涯学習論	260040730	病弱者教育論
260040250	発達心理学	260040740	視覚障害者教育総論
260040260	教育心理学	260040750	聴覚障害者教育総論
260040270	子どもの保健	260040760	重複障害・発達障害の評価
260040280	子どもの食と栄養	260040770	重複障害・発達障害の教育
260040290	子ども家庭支援の社会・心理学	260040780	障害児教育実習事前事後指導
260040300	保育指導論	260040790	障害児教育実習
260040310	保育内容総論	260040800	保育指導論演習
260040320	保育内容・言葉	260040810	家庭支援実践演習
260040330	保育内容・人間関係	260040820	連携協働の基礎
260040340	保育内容・環境Ⅰ	260040830	連携協働演習Ⅰ
260040350	保育内容・環境Ⅱ	260040840	連携協働演習Ⅱ
260040360	保育内容・健康Ⅰ	260040850	教育実習
260040370	保育内容・健康Ⅱ	260040860	教育実習指導
260040380	保育内容・表現Ⅰ	260040870	保育実習Ⅰ
260040390	保育内容・表現Ⅱ（音楽）	260040880	保育実習指導Ⅰ
260040400	保育内容・表現Ⅱ（造形）	260040890	保育実習Ⅱ
260040410	保育内容・表現Ⅱ（言語）	260040900	保育実習指導Ⅱ
260040420	乳児保育Ⅰ	260040910	保育実習Ⅲ
260040430	乳児保育Ⅱ	260040920	保育実習指導Ⅲ
260040440	就学児保育A（思春期の支援）	260040930	専門演習Ⅰ
260040450	就学児保育B（学童保育）	260040940	専門演習Ⅱ
260040460	病児・病後児保育	260040950	卒業研究
260040470	子どもの健康と安全	260040960	教職・保育実践演習
260040480	社会的養護Ⅱ		

科 目 名	感染微生物学			
科 目 名 (英 語)	Clinical Microbiology and Infectious Disease	シラバスNo.	260040010	
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。			
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（問題演習・リアクションペーパー）提出と教員によるフィードバック			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。 復習（90 分）指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）			
参 考 書 (購 入 任 意)	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年） 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）			

科 目 名	公衆衛生学				
科 目 名 (英 語)	Public Health	シラバスNo.	260040020		
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
受 講 の 留 意 点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※感染症とその予防（2）は特別講義のため、授業の計画の順番について後日連絡を行う。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 自分自身で課題に取り組む</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史 2 疫学の基本事項 3 衛生統計／健康水準・健康指標 4 感染症とその予防 5 食品と栄養 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健（労働衛生） 14 健康危機管理（災害と健康） 15 感染症とその予防（2） 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書を事前に目を通す 復習：課題に取り組み、整理ノートを活用して整理する</p>				

成績評価方法	課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる
教科書 （購入必須）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2026/2027年）
参考書 （購入任意）	

科 目 名	医学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Medicine	シラバスNo.	260040030	
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができる。			
受 講 の 留 意 点	教科書および講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義時などに質問すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、はじめに総論および人体の解剖生理の基本的な知識を学んだのち、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（問題演習・リアクションペーパー）提出と教員によるフィードバック			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフステージにおける心身の特徴 2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題 3 健康と疾病の概念・捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）：器官 4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器 5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器・消化器 1 6 身体構造と心身の機能（4）消化器 2・神経 1 7 身体構造と心身の機能（5）神経 2・内分泌 8 身体構造と心身の機能（6）生殖器・筋・骨格 9 身体構造と心身機能（7）皮膚・感覚器、疾病の発生原因と成立機序 10 疾病と障害（1）リハビリテーション、神経疾患 1 11 疾病と障害（2）神経疾患 2、循環器疾患 12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患 1 13 疾病と障害（4）腎・泌尿器疾患 2、消化器疾患、骨・関節疾患 14 疾病と障害（5）血液疾患、免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患 15 疾病と障害（6）産婦人科疾患、精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。 復習（90 分）指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）			
参 考 書 (購 入 任 意)	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第 4 版』医学書院（2015 年）			

科 目 名	食生活論			
科 目 名 (英 語)	Diet and eating habits theory	シラバスNo.	260040040	
担 当 教 員 名	黒河 あおい			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化・食習慣に関する知識を修得させる科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：○			
学 修 到 達 目 標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化・食習慣に関する知識を修得する。			
受 講 の 留 意 点	幼児のみではなく総てのライフステージの食生活の現状・課題、さらに地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。 後半は日本における食文化を概観し、地域や家庭の食事、学校給食の変遷を確認する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・授業終了前 15 分は GW で意見交換を行う。 ・11 回～15 回は、調べ学習・献立作成などの演習を行う。			
授 業 の 計 画	1 ガイダンス：食生活論で何を学ぶか（講義概要の説明）、日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状と課題 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食生活状況と課題 4 家庭における食事の変遷 5 学校給食の変遷 6 子どもの発達と生活状況 7 幼児・児童生徒の食物アレルギー 8 「国民健康・栄養調査」について 9 「食事バランスガイド」について 10 地場産物と学校給食（実践事例） 11 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 12 演習②保育所・幼稚園給食における地場産物の活用を考える 13 演習③幼児向けの地場産物を活用したメニューを考える 14 演習④幼児向けの地場産物を活用したメニューを考える 15 演習⑤についての発表、レポート提出			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業計画に沿って新聞・ネットなどで予習する 復習：配布資料・GW の内容に沿って授業を振り返る * 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。			
成 績 評 価 方 法	発表レポート 40 点・毎回授業の GW と振り返りレポート 60 点により総合的評価する。 成績の評価基準 3：食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解し、その現状から課題を見出し、幼児にとって必要な 1 食分の食事のメニューをたてることができる。 2：食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解し、その現状から課題を見出すことができる。 1：食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を理解できる。			

教科書 (購入必須)	適宜、資料等を配布する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	子どもの権利			
科 目 名 (英 語)	The Rights of the Child	シラバスNo.	260040050	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	子ども法についての専門知識を身につける。 子どもの人権問題に対し、法制度を通じて取り組む視点を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	私の他の講義「人権と法」「日本国憲法」「教育法概論」のいずれとも関連がある。特に「教育法概論」とは関係が深いので、そこに注目して学んでもらいたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「子ども法」という法分野について学ぶ。この分野は近年、こども基本法が制定されるなど著しい発展をみせている。</p> <p>講義の前半では、子ども法の基礎となる「子どもの権利条約」の要点を解説する。後半では、現代日本の子どもの人権問題と、それらに対応する法制度についてとりあげる。子どもの人権問題に取り組むのに、個人の努力だけでは限界がある。法制度を通じて国家権力の支援を得ることが大きな成果につながる。一方でその法制度の不備・問題点についても知らなくてはならない。本講義ではそのような内容を扱う。</p>			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 「子どもの人権」とは 3 子ども法の体系、日本国憲法と子どもの権利 4 子ども権利条約①：条約の成立背景、履行制度 5 子ども権利条約②：条約の基本4原則 6 子ども権利条約③：日本政府報告書審査 7 子ども権利条約④：日本法への影響 8 子ども権利条約⑤：子ども・若者の参加の権利 9 子どもの人権問題①：いじめ 10 子どもの人権問題②：体罰 11 子どもの人権問題③：虐待 12 子どもの人権問題④：障害のある子ども 13 子どもの人権問題⑤：子どもの貧困 14 子どもの人権問題⑥：少年司法 15 子どもの人権問題⑦：外国人の子ども 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文や各種公的文書を読むのに慣れる。関心を持った事項について、指定参考書や参考文献、各種機関のホームページ等で調べてみる。 			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			

教科書 (購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。
参考書 (購入任意)	・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第3版】』(明石書店、2024) ・喜多明人ほか編『逐条解説 子どもの権利条約』(日本評論社、2009) そのほか参考文献を随時紹介する。

科 目 名	人権と法			
科 目 名 (英 語)	Human Rights and Law	シラバスNo.	260040060	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : _____ DP3 : _____ DP4 : _____ DP5 : _____			
学 修 到 達 目 標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。			
受 講 の 留 意 点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講することが望ましい。 「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく、法学の専門的見地から議論していく。現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識をどれだけ備えているかが試されている。本講義はそのような知見を学ぶ機会である。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 講義ガイダンス 2 人権と法制度①：人権思想、人権と実定法 3 人権と法制度②：憲法の基本原則 4 人権と法制度③：人権と憲法上の権利、違憲審査基準 5 外国人の人権①：入管法のしくみとその問題点 6 外国人の人権②：最高裁判例 7 外国人の人権③：ヘイトスピーチ —朝鮮学校襲撃事件、ヘイトスピーチ規制の動向— 8 私人間効力論：三菱樹脂事件、日産自動車事件 9 プライバシー権：グーグル/ツイッター削除請求事件 10 自己決定権：エホバの証人輸血拒否事件、安楽死・尊厳死 11 法の下での平等：婚外子法定相続分違憲決定 12 婚姻の自由：夫婦同氏訴訟 13 LGBTQ+の人権：性同一性障碍特例法違憲決定、同性婚訴訟 14 政治的表現の自由：反戦ビラ事件、ヤジ排除訴訟 15 障害者の人権：旧優生保護法違憲判決			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：授業に出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。講義で出てきた知識事項や判例について、指定参考書や裁判所ホームページ等で調べてみる。			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。			

参 考 書
(購 入 任 意)

独習用のテキストとして、以下をすすめる。そのほか、参考文献を随時紹介する。

- ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)
- ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021)
- ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第7版』(有斐閣、2024) : 旧版も参照。

科 目 名	家族社会学				
科 目 名 (英 語)	Family Sociology	シラバスNo.	260040070		
担 当 教 員 名	佐藤 麻衣、大坂 祐二				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	1. 現代社会における家族のありように関する基本的知識を取得し、説明することができるようになる。 2. 家族をめぐる諸問題を、社会との関連性のなかで理解できるようになる。 3. 家族の多様化を踏まえて人々の生活を考えることができるようになる。				
受 講 の 留 意 点	履修条件なし				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の概要 配布したレジュメをもとに進める。授業内では、まず第1回から第6回にかけて、家族の分析視点や現代家族の特徴を学ぶ。その後、第7回から第15回において、婚姻と離婚、家事・育児、賃金労働と家事・育児との関連、家族介護、若者の自立・独立と家族との関連、夫婦別姓、同性婚といった、現代家族を取り巻く諸問題を取り上げ、それぞれの事象について、社会構造や社会環境との関わりを中心に学んでいく。				
	アクティブ・ラーニングの内容 Forms を活用し、各授業回において匿名で授業の感想・意見・質問等を募り、次の授業内で紹介・コメントを行う。他の受講者の感想や意見・質問等に触れることで、自身の考えや理解を深めるきっかけとしてほしい。				
授 業 の 計 画	1 家族とは何か：家族の定義、現代社会と家族、家族社会学を学ぶ意義（担当：佐藤） 2 家族を「みる」視点（1）：世帯と家族、家族類型（担当：佐藤） 3 昔の家族と今の家族：近代家族の機能と特徴（担当：佐藤） 4 家族の変容と家族危機：個人の生き方の変化とそれに伴う家族の変化（担当：佐藤） 5 家族のコミュニケーション：家族内コミュニケーションの特徴（担当：佐藤） 6 家族を「みる」視点（2）：家族周期、家族の発達段階、家族ストレス論（担当：佐藤） 7 結婚難の時代？：未婚化・非婚化・晩婚化と、その原因（担当：佐藤） 8 賃金労働と家事・育児（1）：専業主婦の誕生、家事・育児という労働の特性（担当：佐藤） 9 賃金労働・家事・育児（2）：育児不安とその要因（担当：佐藤） 10 賃金労働・家事・育児（3）：男性の家事・育児参加（担当：佐藤） 11 賃金労働・家事・育児（4）：ワーク・ライフ・バランス（担当：佐藤） 12 高齢社会と家族介護：日本の高齢化、家族介護の難しさ（担当：佐藤） 13 さまざまな家族のかたち（1）：離婚とひとり親家庭（担当：大坂） 14 さまざまな家族のかたち（2）：若者の自立・独立と家族（担当：大坂） 15 さまざまな家族のかたち（3）：夫婦別姓と同性婚（担当：大坂）				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内で示した参考文献・論文等の中から興味関心のあるものを選んで読み、授業への理解度を深める。				
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）。 （1）家族社会学における基礎知識に関する理解度、（2）現代家族の実態や近代への移行に伴う変				

	化に関するデータを正しく読み解き、その原因について説明できる力、(3) 授業で学んだことをもとに、時事問題について考察できる力、の3点から評価を行う。
教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	授業内で適宜紹介する。

科 目 名	社会福祉概論				
科 目 名 (英 語)	Introduction to social welfare	シラバスNo.	260040080		
担 当 教 員 名	小山 貴博				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、制度や実施体系等について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について学ぶ。さらに、貧困問題が私たちの暮らしの中において、現実的な問題であることについて学ぶ。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：__ DP4：__ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について理解する。さらに、貧困問題を取り上げ、私たちの暮らしの中で貧困問題が他人事ではないことも併せて理解する。そして社会福祉の制度や実施体系等について理解する。最後に社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解したうえで、社会福祉の動向と課題について理解する。				
受 講 の 留 意 点	社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、障がい者問題、貧困問題等）に焦点をあて現状の認識を深め、今後の社会福祉の課題や展開について考える。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会の抱える構造的矛盾に対して、「私達名寄市立大学にて過ごす人々」として、どのように向き合うべきか。共に考える機会とする				
	アクティブ・ラーニングの内容 各回テーマを提示して、受講生同士、時には担当教員と共にディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 インTRODクシオン：社会福祉とは何か（保育と社会福祉） 2 平和・人権・福祉 3 社会福祉の基本理念および法体系 4 私たちの暮らしの現実と社会福祉①-日本社会における貧困問題の概要- 5 私たちの暮らしの現実と社会福祉②-女性の貧困 - 6 私たちの暮らしの現実と社会福祉③-孤独死- 7 私たちの暮らしの現実と社会福祉④-奨学金問題- 8 子ども家庭福祉① 9 子ども家庭福祉② 10 高齢者の生活問題と社会福祉 11 障がい者の生活問題と社会福祉 12 社会福祉施設 13 社会保障および関連制度の概要 14 社会福祉援助の意義と方法 15 海外の社会福祉、まとめ				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：子どもの貧困、女性の貧困にかかわる映像を YouTube で検索、視聴する 復習：多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
成 績 評 価 方 法	筆記試験：100%				
教 科 書 (購 入 必 須)	講義時に適宜資料を配布する。				

参 考 書 (購 入 任 意)	講義時に適宜資料を配布する。
----------------------	----------------

科 目 名	社会保育論			
科 目 名 (英 語)	Childcare of sociology	シラバスNo.	260040090	
担 当 教 員 名	小山 貴博・塚本 智宏・猪熊 弘子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	<p>本学科の名称でもある「社会保育」について、「社会保育とは何なのか」を学生と教職員が一体となって検討、議論を行う。また本学科の理念である「平和・人権・異文化理解」をもとにして、社会保育を捉えなおすことを目的とする。平和の実現、人権の尊重、異文化に対する理解というのは、「善」として受け取られる。他方で、日本や世界の状況についてみてみると、いかにこれら理念の実現に困難が伴うのか、理解できる。こうした社会の抱える構造的矛盾を理解したうえで、「私達名寄市立大学にて過ごす人々」として、保育をはじめとした望ましい子育て支援が”どのようなもの”であり、”どのように行う”責務があるのか、共に考える機会とする。</p>			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：__ DP3：__ DP4：__ DP5：__			
学 修 到 達 目 標	<p>学科理念である「平和・人権・異文化理解」を共通理念とする者同士が、保育を主たる切り口として、日本社会の抱える構造的矛盾について検証・考察する力を獲得する。そのうえで、本学科の目指す社会保育とは何なのか。学生と教職員が一丸となって、社会保育という定義の構築ならびに提言を目指す。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>日本のみならず、世界情勢のニュースに関心を持つようにする。 学科理念を自分なりに、捉えなおす。 講義は対面、場合によっては、オンデマンドやオンライン双方向で実施する。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>社会の抱える構造的矛盾を理解したうえで、「私達名寄市立大学にて過ごす人々」として、保育をはじめとした望ましい子育て支援が”どのようなもの”であり、”どのように行う”責務があるのか、共に考える機会とする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 各回にテーマを提示して、それにもとづいて受講生同士、ディスカッションを行う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：(小山) 2 学科理念「平和・人権・異文化理解」と社会保育(小山) 3 日本社会の抱える構造的矛盾①-システムと生活世界-(小山) 4 日本社会の抱える構造的矛盾②-文化的再生産-(小山) 5 日本社会の抱える構造的矛盾③-子どもと貧困-(小山) 6 J.コルチャックの人権思想①-子ども=すでに人間という思想の形成-(塚本) 7 J.コルチャックの人権思想②-子どもの権利・人権思想としての成熟-(塚本) 8 J.コルチャックの人権思想③-世紀転換と子どもの権利思想-(塚本) 9 J.コルチャックの人権思想④-孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践-(塚本) 10 J.コルチャックの人権思想④-孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践-(塚本) 11 J.コルチャックの人権思想⑤-子どもの権利条約・権利条例・まちづくり-(塚本) 12 保育制度の現状と課題①(猪熊) 13 保育制度の現状と課題②(猪熊) 14 子育ての社会保障①(猪熊) 15 子育ての社会保障②(猪熊) 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：日本の抱える潜在的な領土問題、子どもに対する多岐にわたる虐待や人権問題・世界の紛争や民族問題自分なりに検証・考察を加える。 復習：講義内容を振り返り、予習内容を発展させる。</p>			

成績評価方法	最終レポート：100%
教科書 (購入必須)	講義時に適宜資料を配布する。
参考書 (購入任意)	講義時に適宜資料を配布する。

科 目 名	平和・人権・異文化理解の学際的研究			
科 目 名 (英 語)	Interdisciplinary Research of Peace, Human Rights and Cross-cultural Understanding	シラバスNo.	260040095	
担 当 教 員 名	社会保育学科教員他			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 講 義
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : _____ DP3 : _____ DP4 : _____ DP5 : _____			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の背景となる社会的課題を構造的に理解することができる。 ・どの子どもも健やかに育つことのできる社会について、平和・人権・異文化理解といった視点から考察することができる。 			
受 講 の 留 意 点	担当の各教員により別途指示する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業は例示したテーマ毎に講義を主とした形式で進めるが、グループ・ディスカッション等も行う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもが育つ社会―「貿易ゲーム」で体感する経済格差 2 社会構造の基盤―経済 3 様々な差別の現状と差別が生み出される要因① 4 様々な差別の現状と差別が生み出される要因② 5 平和な社会の希求 6 平和な社会を支える仕組み―民主主義 7 人間らしく生きる①自然の中で生きる人類 8 人間らしく生きる②文化を創造する人類 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単 位 × 45 時 間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 次回に関わる部分や関連文献を読み、概要を把握し疑問点を整理しておく。 復習 (90 分) テキストや資料を読み返し、次に取り組む課題を整理しておく。</p>			
成 績 評 価 方 法	授業態度 (20 点) 及びレポート提出 (80 点) により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	担当の各教員により別途指示する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	保育システム論			
科 目 名 (英 語)	Theory of Childcare System	シラバスNo.	260040100	
担 当 教 員 名	長津 詩織			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	日本における保育システムの歴史の変遷、現状、課題、将来的な方向等を、論理的・客観的に明らかにすることができるようになる			
受 講 の 留 意 点	これまでの講義等で学んだ保育政策・制度全般について、基礎的事項を復習しておくこと。 毎回のテーマを確認し、それに関連した近年の動向やニュースを調べておくこと			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本講義では、保育システム変動の時期を迎えている現在の状況をふまえ、保育政策・制度などの視点から、保育システムの歴史の変遷と現代の動向および課題について学び、考察する。また、諸外国の保育政策・制度を視野に入れ、日本の保育政策・制度についての検討を行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 講義内でグループ・ディスカッション、ディベートを行う。			
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 保育の普遍性と固有性 3 現代日本の保育制度①保育政策と制度 4 現代日本の保育制度②公定価格 5 現代日本の保育制度③保育無償化 6 現代日本の保育制度④現在の動向 7 少子化対策と子育て支援 8 生活時間と保育時間 9 保育における ICT 活用①現在の動向 10 保育における ICT 活用②今後の展開 11 多様な保育①異年齢保育 12 多様な保育②「多様な子ども」とは 13 子どもの権利と保育者のありかた 14 「保育」再考 15 まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 日々のニュース等で保育に関するトピックを読み、自分なりの考えをまとめておく。 講義内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。			
成 績 評 価 方 法	・最終レポート : 50 点 ・リアクションペーパー : 20 点 ・グループワークへの取り組み : 30 点			
教 科 書 (購 入 必 須)	・必要に応じて資料を提示する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	保育経営論			
科 目 名 (英 語)	Theory of Early Childhood Care and Education Management	シラバスNo.	260040110	
担 当 教 員 名	長津 詩織			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>1 現在の保育施設に求められる役割や、関連する制度など、保育施設をめぐる構造的な背景を理解する。</p> <p>2 多様な生き方や価値観（世代・ジェンダー・障害など）に対する理解を深め、多様な個性をもつ子ども、保護者、保育者によってよりよい施設運営をするために、必要な知識を獲得する。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>これまでの講義で学んだ保育施設の種類や保育制度について復習しておくこと。</p> <p>毎回のテーマを確認し、それに関連した近年の動向やニュースを調べておくこと。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>保育の質は、保育者個々の責任に帰するものではなく、経営のあり方にも大きく左右される。この授業では、保育環境を保证する安定した経営、保育ニーズの分析、各園の保育の根幹となる保育方針・計画の策定、コンプライアンス、多様な個性を持つ保育者の活用、専門性の向上を保证する研修等、保育所や幼稚園の経営に必要な事項を扱う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 講義内でグループ・ディスカッションを行う。また、調査学習も取り入れる。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 保育経営の基礎的事項 3 地域の保育ニーズ 4 経営主体 5 保育理念と方針 6 保育形態とクラス運営 7 保育経営に係る費用 8 園庭と園舎 9 多様な経営形態 10 人事労務管理①労働時間と休暇 11 人事労務管理②採用とキャリアアップ 12 人事労務管理③改善事例 13 リスクマネジメント 14 これからの保育経営 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 これまでの講義で学んだ保育制度について復習し、近年の情勢を調べておく。 講義内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。</p>			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー：20% ・講義内での提出物：80点 			

教科書 (購入必須)	・必要に応じて資料を提示する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	社会保育論演習			
科 目 名 (英 語)	Seminar on Childcare and Education in Society	シラバスNo.	260040120	
担 当 教 員 名	長津 詩織・他学科教員			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等、「社会保育」の現状と課題を実践レベルで明らかにすることができる			
受 講 の 留 意 点	フィールドワークは学生の希望や意見を元に調整・実施する。保育をより広い視点で捉えるために知りたいことを考えておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「社会保育論」での学修をふまえ、実践レベルで「社会保育」の実現に向けた取り組みを考える。社会と保育との関わりを体験的に学ぶフィールドワークを通して、社会で子どもが育つ／子どもを育てることの意味や、その現代的な課題について考える。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 受講者の興味・関心に応じてグループに分かれ、発見・調査学習を行う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 演習計画作成① 3 演習計画作成② 4 フィールドワーク計画 5 フィールドワーク準備 6 フィールドワーク実施① 7 フィールドワーク実施② 8 フィールドワーク実施③ 9 ここまでのまとめ 10 フィールドワーク実施④ 11 フィールドワーク実施⑤ 12 フィールドワーク実施⑥ 13 フィールドワーク振り返り① 14 フィールドワーク振り返り② 15 報告会、まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークへの取り組み : 60 点 ・報告会の内容 : 40 点 			
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を提示する。 			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	保健医療福祉連携論			
科 目 名 (英 語)	Cooperation Theory in Health and Medical Welfare	シラバスNo.	260040130	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な実践例 (参考となる事例) について触れることで、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。とりわけ地域社会を対象とした幅広い連携のあり方について学ぶ。また、自身立ち位置や役割 (= 専門職間 (学科間)・専門職内 (キャリアや個人差)) であっても、その時点で持つ知識の分野に差があることについても理解する (キャリアラダー)。</p> <p>このため、①グループワークや実際のカンファレンスの現場で活用出来る情報の整理術・伝え方に関する技術を学ぶ。②様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、多職種連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つことが出来るよう構成する。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 連携協働の基礎、連携協働演習 I の受講を前提とする。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> ① 連携実践を行う上での技術や ICT ツールの活用方法等を紹介する。 ② 様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、それぞれの役割を互いに理解し、そこから多職種連携の実践に向けての課題や取組の方向性について考察する。 ③ 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携実践の例を複数紹介し、IPW を実践する際の自らの役割や連携協働のあり方について考える。 ④ 各学科実習・演習等の内容のリフレクションを行い、各専門職間の認識・考え方の理解につなげる。 ⑤ 事例検討を通じて当事者を含む他職種の (多様な) 考え方を理解する。 ⑥ 最後にグループワークを実施し、連携教育の総括として、連携実践のイメージを高め、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持てるように講義展開を行う。 <p><留意事項> 本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディット型開講を行う。また通年8回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。 講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学内におけるグループワークを行う。グループワークの実践方法についてもより向上できるよう取り組む。</p>			

授業の計画	<p>1 オリエンテーション ・講義方法の説明とこれまでの振り返り 講義の概要 具体的な受講方法（一部オンライン講義および演習、地域活動） IPE の到達状況（積み上げで期待される成果）</p> <p>連携手法・統合の技術① ・情報集約・統合の具体的手法について学ぶ（ICT 活用等）</p> <p>2 連携手法・統合の技術② ・グループワークを実施し、実際に情報集約を行ってみる</p> <p>3 保健医療福祉連携活動の実践例（オンデマンド） 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携・協働活動の実践例について紹介し、その意義と専門職・個人の能力（立場）の発揮、目に見えない広い意味での連携について考える</p> <p>4 カンファレンス① これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。各活動による学びの共有とこれからの IPW に対して求められる専門職としての能力と個人の資質の関係性等について話し合う。</p> <p>5 リフレクション手法の概説 ・リフレクションを行う際の手法について概説を行う</p> <p>6 実習経験のリフレクション ・グループワークを実施し、自身の実習経験を共有する。その過程で各専門職間の認識・考え方の理解につなげる</p> <p>7 事例検討を行う</p> <p>8 カンファレンス② これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。事例検討を行う中で各専門職間の認識・考え方の違いについて理解し、職種の自覚を持って、共通の目標を設定し、その目標に向かって全員で取り組むことが出来るよう学ぶ</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	

科 目 名	保育原理				
科 目 名 (英 語)	Principles of Early Childhood Care and Education			シラバスNo.	260040140
担 当 教 員 名	高島 裕美・滝澤 真毅				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針等を読解し、そこで示されている保育の基本方針について理解し、説明することができる。 ・保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解し、説明することができる。 ・保育の思想とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・乳幼児の発達理解に関する理論とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・現在の保育と子ども、子育てにおける課題について考察し、その解決方法を示すことができる 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業では、担当教員が作成したレジュメを配布し、それに沿って講義を行う。 また、保育所保育指針等を用い、現行の保育制度及び法令等を説明することで、保育の意義及び目的、保育思想及び発達理解に関する理論、保育内容や方法についての基本的な知識を身に付けられるようにする。 さらに、具体的な事例を用いて、現在の保育と子ども、子育てにおける課題を把握し、その解決方法を主体的に考察する機会を持つ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 教室でのグループディスカッション、ディベート</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：「保育」とは何か 2 保育者・保育施設に求められる役割と倫理①：子どもの最善の利益と保育 3 保育者・保育施設に求められる役割と倫理②：子ども家庭福祉と保育 4 現行の保育制度の基本的理解①：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について 5 現行の保育制度の基本的理解②：「子ども・子育て支援新制度」「子ども家庭庁」について 6 保育に関する法制度の歴史の変遷①：戦後～1980年代 7 保育に関する法制度の歴史の変遷②：1990年代～現在 8 保育思想の歴史①：保育観・子ども観の成り立ち 9 保育思想の歴史②：社会の変化と保育思想の転換 10 乳幼児の発達理解をめぐる歴史①：学習説としての「行動主義心理学」 11 乳幼児の発達理解をめぐる歴史②：生得説としての「児童心理学」 12 乳幼児の発達理解をめぐる歴史③：遺伝と環境の相互作用をとらえる「発達心理学」へ 13 現代の保育の課題とは何か①：保育施設と家庭・地域・学校・行政との連携・協働 14 現代の保育の課題とは何か②：子育て不安・ストレスと地域子育て支援事業の展開 15 保育における課題を解決するためには：グループワーク 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習としては、「授業の計画」にあるキーワードについて、文献やインターネット等を利用してあらかじめ調べ、情報収集すること。 復習としては、講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインタ</p>				

	ーネット等を利用して，理解を深めること。
成績評価方法	筆記試験（100%）
教科書 （購入必須）	厚生労働省，2018『平成30年3月 保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省，2018『平成30年3月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府ほか，2018『平成30年3月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 宮島清・山縣文治編，2024『ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーの子ども家庭福祉データブック2025』中央法規出版（株）
参考書 （購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。

科 目 名	教育原理				
科 目 名 (英 語)	Principles of Education	シラバスNo.	260040150		
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の教育を歴史的・思想的・制度的な視点から理解し，説明することができる。 ・学校教育の制度ならびに内容・方法について理解し，説明することができる。 ・教育における現代的課題を理解し，深い考察をとおしてその解決方法を示すことができる。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業では，担当教員が作成したレジュメを配布し，それに沿って講義を行う。</p> <p>また，教育に関する法規や政策文書等の資料を用い，教育の基礎理論や思想，学校教育の成り立ちや歴史の変遷，教育実践の内容・方法等について学ぶ。</p> <p>さらに，現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し，その解決に当たる教員に求められる資質・力量，役割について考察する機会を持つ。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 教室でのグループディスカッション，ディベート</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：「教育」について学ぶ前に 2 家庭における子育てと教育 3 子どもをどのように捉えるか：子ども観の歴史 4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史 5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史 6 幼児教育の思想と歴史 7 学校の歴史と仕組み 8 教育課程・カリキュラムの変遷 9 子ども中心主義の思想と学校 10 授業と学習指導 11 教育の評価 12 学力とは何か 13 教師の成長 14 教育の現代的課題と学校 15 まとめ：学校・教育の諸問題を解決するために 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習としては，あらかじめ示す毎回の授業のキーワードについて，文献やインターネット等を利用して調べ，情報収集すること。</p> <p>復習としては，講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書，トピックについて，文献やインターネット等を利用して，理解を深めること。</p>				
成 績 評 価 方 法	毎回作成するワーク (100%)				
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない。				

参 考 書
(購 入 任 意)

授業のなかで適宜紹介する。

科 目 名	教職概論（幼稚園）				
科 目 名（英 語）	Introduction to Teaching Profession (Kindergarten)		シラバスNo.	260040160	
担 当 教 員 名	高島 裕美・				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の教員および保育者に求められる資質・能力，期待される役割と，それらの歴史的変遷について理解し，説明することができる。 ・学校および保育施設の機能と役割，そこでの多職種との連携・協働の重要性について理解したうえで，自分なりの考えを持ち，それを説明することができる。 ・現代の教員および保育者が身に付けるべき専門性について自分なりの考えを持ち，それを説明することができる。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>時代の移り変わりとともに変化する教員・保育者に期待される役割と，いつの時代も変わらない（不易の）役割との両面を，資料や具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また，学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し，上記をふまえたうえで，教員・保育者の専門性，多職種との連携・協働の在り方について議論する。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 教室でのグループディスカッション，ディベート</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：「教職」とはどんな職業か 2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム，教員免許・保育士資格の意義 3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設の実際 4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続 5 現代の子どもの生活と学校・保育施設③：小学校以上の学校教育の実際 6 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法・子どもの遊び 7 教員・保育者の仕事と役割②：教員・保育者の仕事と役割の実際 8 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務 9 教員・保育者にかかわる制度・法律②：教育の担い手をめぐる制度改革 10 教職員集団の変化①：学校内のさまざまな役割・教職員集団 11 教職員集団の変化②：多職種との連携・協働 12 子ども集団の変化 13 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク 14 教員・保育者の専門性とは②：発表 15 教員・保育者の専門性とは③：まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習・復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習としては，「授業の計画」にあるキーワードについて，文献やインターネット等を利用してあらかじめ調べ，情報収集すること。</p> <p>復習としては，講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書，トピックについて，文献やインターネット等を利用して，理解を深めること。</p>				
成 績 評 価 方 法	期末レポート（100%）				

教科書 (購入必須)	特に指定しない。
参考書 (購入任意)	授業のなかで適宜紹介する。

科 目 名	子ども家庭福祉 I				
科 目 名 (英 語)	Child and Family Welfare I	シラバスNo.	260040170		
担 当 教 員 名	鈴木 勲・長津 詩織				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、子ども家庭福祉の基礎、応用について教授する。内容には、子ども家庭福祉の理念と概要、制度と実施体系、方法、関係機関との連携や協働などを含む。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：__ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 				
受 講 の 留 意 点	<p>授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。</p> <p>授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。</p> <p>参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 児童虐待の事例や子ども家庭福祉の課題に関する事例検討を行い、学生に分析と討論を促す。それぞれのケースに対してどのような介入が最適かを考えることで、現実の問題解決能力を養う。また、子ども家庭福祉領域の専門家を招き、実務経験に基づく話を聞く機会を設ける。現場の生の声を聴くことで、理論だけでなく実践の重要性も理解する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 子どもと家庭に関する日頃のニュース等に関心をもち、自分なりの考えをまとめておく。 講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。</p>				

成績評価方法	最終レポート70点、講義内での提出物30点
教科書 (購入必須)	・必要に応じて資料を提示する。
参考書 (購入任意)	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部</p> <p>※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとするこ と。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。</p>

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Child and family welfareⅡ	シラバスNo.	260040180		
担 当 教 員 名	小山 貴博・家村 昭矩・糸田 尚史・小山 和利・鹿野 誠一・藤原 浩				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	通信制高等学校等での実務経験を有する専任教員（小山貴博）、児童相談所での実務経験を有する専任教員（家村）児童相談所・心身障害者総合相談所・児童家庭支援センターでの実務経験を有する専任教員（糸田）、児童相談所・精神保健福祉センター・心身障害者総合相談所・児童自立支援施設での実務経験を有する非常勤講師（小山和利）児童相談所・旧女子教護院・子ども総合療育センター・児童養護施設での実務経験を有する非常勤講師（鹿野）、児童自立支援施設・児童心理治療施設等での実務経験を有する非常勤講師（藤原）、による多様で特別な支援を必要とする子どもと家庭を理解し、地域社会に根差す視点を養うための科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭の課題を理解し、介入や支援を行うことができる。子どもの最善の利益を地域で保障する実践について理解し、子ども家庭福祉の観点から対応することができる。				
受 講 の 留 意 点	積極的に講義や演習に参加し、対話的に深く学ぶことを期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。 アクティブ・ラーニングの内容 各回テーマを提示して、受講生同士、時には担当教員と共にディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	1 はじめに：（小山貴博） 2 子ども家庭福祉の実践と援助技術（小山貴博） 3 子どもを取り巻く社会的課題としての貧困：通信制高等学校の事例から（小山貴博） 4 社会的養護の種類（小山貴博） 5 里親制度（小山貴博） 6 地域で取り組む社会的養護：児童相談所・心理診断と心理的支援・里親（藤女子大学人間生活学部子ども教育学科教授・元北海道帯広児童相談所長 小山和利） 7 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・旧女子教護院・子ども総合療育センター・児童養護施設（元旭川大学教授・元旭川育児院院長 鹿野誠一） 8 地域で取り組む社会的養：児童自立支援施設（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩） 9 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 10 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 11 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 12 地域での実践から学ぶ：子ども理解の実際―児童相談所一時保護所・児童養護施設（家村昭矩） 13 地域で取り組む児童虐待：（元名寄市立大学教授 糸田尚史） 14 地域で取り組む児童虐待：（元名寄市立大学教授 糸田尚史） 15 まとめ：望ましい子ども家庭福祉の実現に向けて（小山貴博）				
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：施設実習を行う点を考慮して、将来、実習に参加する予定の施設の種別について調べる。 復習：講義をまとめる。				
成 績 評 価 方 法	レポート 100%				

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>講義時に適宜資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>小山貴博「あなたはパンをぬすみますか：通信制高等学校生の居場所と学習」(浅沼茂編『思考力を育む道德教育の理論と実践◇コールバーグからハーバーマスへ』黎明書房) 陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院 坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版 小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版</p>

科 目 名	子ども家庭支援論			
科 目 名 (英 語)	Theory of Child and Family Support	シラバスNo.	260040190	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について講義し、家庭支援における保育者の役割について学ぶ科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：○ DP5：○			
学 修 到 達 目 標	子育て家庭に対する支援について体系的に学び、説明できるようになる。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状を知り、課題について考察することにより、よりよい支援をできるようにする。			
受 講 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション、模擬支援場面による演習とディスカッション			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 参考書等の関連する箇所を事前に目を通しておく 授業で取り上げられた内容に関して、実際の子育て支援等に結びつけて振り返る			
成 績 評 価 方 法	期末課題（レポート）70%、毎回のコメントシート（30%）			
教 科 書 (購 入 必 須)	太田敬子・坂本健編著『シリーズ・保育の基礎を学ぶ⑥実践に活かす子ども家庭支援』ミネルヴァ書房			
参 考 書 (購 入 任 意)	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院			

科 目 名	社会的養護 I				
科 目 名 (英 語)	Social Care and Protection I		シラバスNo.	260040200	
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を基に、社会的養護の基礎と応用について教授する。授業では、社会的養護の原理、理念、仕組み、子どもの権利擁護に焦点を当てる。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	1.児童福祉施設における保育士の仕事と役割について学ぶ。 2.社会的養護の原理や理念、仕組みについて理解する。 3.社会的養護領域の事例を活用し、社会的養護を必要とする子どもについての理解を深める。				
受 講 の 留 意 点	社会的養護の基礎原理及び社会的養護下にある子どもの現状、児童福祉施設の役割を学び、養護を必要とする子どもの自立支援のための基礎知識を身に付けていくことを目的とする。また、社会的養護の基礎理念、社会的養護の法制度、子どもの権利擁護などの観点から授業を進めていく。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業展開については、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の児童養護施設や児童相談所の事例を使って、学生が小グループで討議し、社会的養護が必要な子どもに対する具体的な対策を考案する。 2. 学生が児童養護施設や児童相談所の専門家や子ども、保護者の役割を演じ、実際の相談シーンを再現する。 3. 授業の終わりに、その日のトピックについて意見交換を行う。 4. 学生には、授業で学んだ内容や感想、疑問点を記録してもらう。 5. グループまたは個人で、社会的養護を必要とする子どもを支援するプロジェクトを計画し、報告してもらう。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護 3 社会的「養護」と子どもの権利「擁護」とは 4 要保護児童や要保護児童とは何か 5 児童福祉施設の機能と役割について 6 家庭と同様の養育環境の保障について 7 社会的養護の変遷について 8 社会的養護の理念と概念 9 社会的養護の基本原則 10 社会的養護の理論について 11 社会的養護のしくみと実施体制 12 社会的養護の専門職に求められる専門性と役割 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の課題と地域福祉 15 全体のまとめと振り返り 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。 復習は、講義内容を振り返り、考えを深めること。				

成績評価方法	リアクションペーパーの内容 75% 学科末レポート 25%
教科書 (購入必須)	特に指定しない。適宜資料等を配布する。
参考書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。 和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店 (ISBN-10 : 4750356514)

科 目 名	保育者論				
科 目 名 (英 語)	Theory of Teacher	シラバスNo.	260040210		
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・長津 詩織				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について講義し、保育における保育者の役割について学ぶ科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	保育者の役割、倫理、保育士に関する制度を学び、説明できるようになる。 保育士の専門性や保育者同士の協働について考察することにより、専門職として成長していくことができるようになる。				
受 講 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション				
授 業 の 計 画	1 保育者の役割と倫理 (担当 傳馬) 2 保育士の制度的位置づけ (担当 傳馬) 3 保育士の専門性 養護と教育 (担当 傳馬) 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力 (担当 傳馬) 5 保育と保護者支援にかかわる協働 (担当 傳馬) 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携 (担当 傳馬) 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携 (担当 傳馬) 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携 (担当 傳馬) 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断 (担当 長津) 10 保育士の専門性 保育の省察 (担当 長津) 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達 (担当 長津) 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成 (担当 長津) 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ (担当 長津) 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件 (担当 長津) 15 まとめ より良い保育者を目指して (担当 傳馬)				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 自ら受けた保育の記憶や実習で出会った保育者を思い出しながら「保育者とは」との視点で予習を行う。 復習は、講義内容を振り返り、ノートなどにまとめる。				
成 績 評 価 方 法	期末レポート (70%)、リアクションペーパー (30%)				
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない。				

参 考 書 (購 入 任 意)	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院
----------------------------	--

科 目 名	幼児教育史				
科 目 名 (英 語)	History of Early Childhood Education	シラバスNo.	260040220		
担 当 教 員 名	稲井 智義				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	北海道史編さん調査研究委員、北海道教育大学附属旭川幼稚園研究協力者、幼児教育史学会理事の 実務経験をふまえ、道内の幼児教育と子ども福祉の展開、幼児教育史研究について紹介します。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	この授業の目標は、受講者が幼児教育の歴史と研究動向を理解して、子どもと教育、社会を完全に わかったつもりにならず、自分で探究をはじめて歴史をつくるための技法を身につけることです。				
受 講 の 留 意 点	22年度受講者いわく「私は最初稲井先生が苦手でした」。4月に出席して受講するかしないか判断 する。恥も外聞も捨てて全力で深く勉強しませんか。原則 zoom 顔出しで準備してください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会や政治との関わりから幼児教育の歴史を講義する。第二次世界大戦後イタリアのレッジョ・エ ミリアの幼児教育を、市民性教育やファンタジー、『保育の質を超えて』の視点から取り上げる。受 講者が研究するための調査方法を紹介する。後半では、『幼児教育へのいざない』を読み解く。 アクティブ・ラーニングの内容 受講者は指定箇所をグループで調べて、わからないことを報告し、質疑応答と対話をする。これか らの幼児教育と社会を協同作業で深く考えたい。わからないと言うことは勇気があることです。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、自分の問題関心の紹介、「コハルと津守真に出会う」 2 岡山孤児院と近代教育思想：ルソー「子どもの発見」とアリエス「子ども観の変化の発見」 3 社会保育の歴史：「近代日本の子ども観と母性、社会改革」、動物と地震と保育所 4 『すずめの戸締まり』における幼高大猫ノンヒューマン共動とレッジョ・インスピレーション 5 幼児教育における政治と倫理：佐伯胖、『どろぼうがっこう』1973年、「公共心」1989年 6 市民としての子どもがつくるレッジョ・エミリア市の幼児教育：アート、ファンタジー 7 すべての子どもの学習権を保障する『みんなの学校』：大空小学校とフル・インクルーシブ 8 ねごと教育学：1988年の『となりのトトロ』と『にゃーご』からアナーキズムへ 9 「第5章「アートの思考」の教育」「あとがき」「増補改訂版の刊行にあたって」 10 「第1章 子どもを見るということ」 11 「第2章 子どもが「発達する」ということ」 12 「第3章 保育思想の源泉をさぐる」 13 「第4章「ともに生きる」保育」 14 『近代性への通路』の「第4章 デイケアと経済改良：神戸戦役記念保育会」（稲井智義訳配布） 15 まとめ、「勉強は自己破壊である」（千葉『勉強の哲学』）、みなさんは何が変わりましたか。 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書指定箇所を読み、わからない箇所・単語をすべて書いた資料を作成する。 復習：教科書と講義を手がかりに自分が探究すべき課題について図書館で調べ始める。 『保育学用語辞典』2019年（稲井も執筆）、小玉亮子編『幼児教育』2020年（22年度教科書）、 幼児教育史学会監修『幼児教育史研究の新天地』2021-2022年を読み、関連内容を調べる。</p>				
成 績 評 価 方 法	授業内に提出する小レポートと質疑応答と対話（84%）、グループレポート報告（16%）。 遠隔授業（zoom・リアルタイム・原則顔出し、6月2週間実習はオンデマンド映像）で実施。				
教 科 書 (購 入 必 須)	佐伯胖『幼児教育へのいざない：円熟した保育者になるために』増補改訂版、東京大学出版会、2014 年（23年度から指定）。5月に分担を決めて各自で事前に読み、第9～13回目に検討します。第14 回検討資料、キャサリン・ウノ『近代性への通路』1999年は翻訳版コピーを配布します。				

参
考
書
(購 入 任 意)

千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。(勤務校「領域・環境」教科書)
キャロル・ギリガン『もうひとつの声で：心理学の理論とケアの倫理』風行社、2022年。
浅井幸子ほか編『アトリエからはじまる「探究」』2023年。(Amazon 試し読み推奨)
プレイディみかこ『ジンセイハ、オンガクデアル』ちくま文庫、2022年。
名寄の先生が推薦した本、川端美穂先生シラバス記載文献、小玉亮子「子ども学で考える」動画。

科 目 名	教育法概論			
科 目 名 (英 語)	Education Law	シラバスNo.	260040230	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：__ DP3：__ DP4：__ DP5：__			
学 修 到 達 目 標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。			
受 講 の 留 意 点	私の担当講義「人権と法」「日本国憲法」「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は関係が深く、可能なら併せて受講してほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>教育法とは、日本国憲法・国際人権条約・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制の下で新たに出発し、国の教育政策とそれに対する抵抗運動の図式の中で発展を遂げてきた。</p> <p>この授業では、教育法の主要法規と典型事例について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務にのぞむ良識を身につけてもらいたい。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 教育法とは何か 3 教育法の歴史：旧憲法・教育勅語体制、新憲法・教基法体制、戦後教育法学の展開 4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成 5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法 6 学校教育法：学校制度 7 地教行法：教育委員会、教育の地方分権化 8 学校安全：学校保健安全法ほか 9 国際教育法と日本 10 教育権論争 11 教科書検定制度 12 日の丸・君が代訴訟 13 公立学校と政教分離原則 14 校則裁判①：熊本丸刈り訴訟、大方商業高校バイク謹慎事件 15 校則裁判②：懐風館高校事件、修徳高校バイク退学ノパーマ退学事件 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習(90分)：指定教科書・参考書を読む。 ・復習(90分)：指定教科書・参考書、参考文献を読み直す。講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関や裁判所等のホームページで関心を持った事項について調べてみる。 			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) その他追加資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>荒牧重人ほか編「新基本法コンメンタール 教育関係法」(日本評論社、2015) そのほか参考文献を随時紹介する。</p>

科 目 名	生涯学習論			
科 目 名 (英 語)	Lifelong Learning	シラバスNo.	260040240	
担 当 教 員 名	大坂 祐二			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：○			
学 修 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって、授業の順番を変更する、遠隔授業による補講を行う等の対応をすることがある。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 第7、8回では自己教育活動について、第10、11回では学習の組織化について、グループワークをとおして理解を深める。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ー夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 ー学びの自主性をめぐって 6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員 7 自己教育活動と若者の社会参画 8 自己教育活動と子育て仲間づくり 9 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 10 子どもの職業体験活動にみる学習の組織化 11 誰が学習要求を組織するのか 12 学習過程とその支援 ー健康学習を例に 13 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践① 14 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 講義の内容を振り返り、要点や考えたことをノートなどにまとめる。指示された資料や文献を読む。			
成 績 評 価 方 法	課題提出または小テスト (30 点) および期末レポート (70 点)			
教 科 書 (購 入 必 須)	指定のテキストはない。毎時、レジユメおよび資料を配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013 年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014 年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017 年			

科 目 名	発達心理学				
科 目 名 (英 語)	Developmental Psychology	シラバスNo.	260040250		
担 当 教 員 名	滝澤 真毅・奥村 香澄				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	1 発達心理学の基礎理論について理解する 2 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する				
受 講 の 留 意 点	講義で取りあげる学習内容を、バラバラの知識としてではなく、大きな「発達観」を形成する要素として、「つながり」を意識しながら学ぶことを期待する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	発達心理学の基礎理論について、とくに保育実践との関連にも触れながら取りあげる。 アクティブ・ラーニングの内容 授業内での発問への反応、グループでの話し合いなどを適宜おこなう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、発達理解の意義 2 発達観、子ども観、保育観 3 運動機能の発達 4 愛着の形成と発達 5 社会性、感情、自我、心の理論、道徳性 6 言葉とコミュニケーションの発達 7 認知と遊びの発達 8 保育の環境と発達の援助 9 子どもの「問題行動」と保育 10 保育実践の評価 11 発達と学習①知覚 12 発達と学習②学習の基礎的発達 13 発達と学習③思考と言語 14 障害時の発達①障害とは 15 障害児の発達②コミュニケーション				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習として、次回講義で取りあげる予定の内容に関する事前学習をおこなうこと。また、復習として、授業内容を振り返りノートや資料等の整理をおこなうこと。				
成 績 評 価 方 法	授業内の提出物 (10 点) および期末試験 (90 点) により評価する				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教育心理学				
科 目 名 (英 語)	Educational Psychology	シラバスNo.	260040260		
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習にかかわる基礎的な心理学理論を理解する。 (2) 発達の特徴を踏まえた学習を支える指導の基礎的な考え方を修得する。				
受 講 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	はじめに子どもの心身の発達及び学習に関する基礎理論を学ぶ。その後、子どもの心身の発達及び学習にかかわる各論（記憶、知識、概念、動機づけ、問題解決、リテラシー等）を学ぶ。以上の内容を通して、教育実践を心理学的に理解し、自ら検討できるようになることを目指す。				
	アクティブ・ラーニングの内容 心理学理論に関するディスカッション、および心理学実験の演習等をおこなう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 発達および学習の基礎理論 1 発達の理論 3 発達および学習の基礎理論 2 学習の理論 4 発達および学習の基礎理論 3 発達と学習の関係 5 学習における記憶の役割 1 記憶のしくみ 6 学習における記憶の役割 2 外的記憶補助、媒介記憶 7 知識・概念の学習と発達 1 概念の構造 8 知識・概念の学習と発達 2 科学的概念と生活的概念 9 学習への動機づけ 1 内発的動機づけ、自己決定理論 10 学習への動機づけ 2 達成目標理論 11 問題解決による学習 1 問題解決、転移 12 問題解決による学習 2 集団における協働学習 13 学習および発達の支援の問題 1 主体的学習の支援と評価 14 学習および発達の支援の問題 2 外国にルーツをもつ子どもへの学習支援 15 学習および発達の支援の問題 3 幼児期のリテラシーの学習支援				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内容を振り返り、下記の参考書および関連文献を読む。				
成 績 評 価 方 法	授業中のディスカッション等への参加 (20 点)、課題提出 (20 点)、期末試験 (60 点) により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	授業時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	『学習・言語心理学』(郷式 徹・西垣順子編、ミネルヴァ書房) 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』(石黒広昭著、東京大学出版会)				

科 目 名	子どもの保健				
科 目 名 (英 語)	Child health care and well-being	シラバスNo.	260040270		
担 当 教 員 名	塚原 高広・池上 祐紀子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	・医学的知識のある医師の資格を有する教員と保健師経験をもつ教員が、子どもの成長発達、健康状態の把握の仕方について講義やグループ学習を通して指導する。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。 2 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。 3 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 4 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。 5 子どものこころとからだ、「虐待」から現代的問題を理解することができる。 				
受 講 の 留 意 点	・子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。 ・子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また、子どもの疾病とその対応については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。 <p>アクティブ・ラーニングの内容：第1回～第10回は講義の中でグループ学習を行い、学びを共有する。第11回～15回は、課題（問題演習・リアクションペーパー）を実施し、教員によるフィードバックを行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標・保健活動の意義と目的・健康の概念と健康の指標 2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止・子どもたちを取り巻く現状・地域の子育て支援と保健活動 3 子どもの身体的発育・発達と保健（1） 身体発育及び運動機能の発達と保健・成長と発育・発育の原理原則・運動機能の発達 4 子どもの身体的発育・発達と保健（2） 生理機能の発達と保健・脳の発達・呼吸機能の発達・循環機能の発達 5 子どもの身体的発育・発達と保健（3） 生理機能の発達と保健・体温・食べる機能・排泄する機能 6 子どもの身体的発育・発達と保健（4） 生理機能の発達と保健・水分代謝・免疫機能・睡眠のリズム 7 子どもの心身の健康状態とその把握（1） ・健康状態の観察・子どもの症状の特徴・心身が不調の時の早期発見とその見かた 8 子どもの心身の健康状態とその把握（2） ・心身が不調の時の早期発見とその見かた 下痢・嘔吐・脱水・痛みの訴え方、腹痛、頭痛、けいれん、伝染性の発疹 9 子どもの心身の健康状態とその把握（3） ・発育・発達の把握と健康診断・発育評価・保護者との情報交換 10 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響・虐待の現状と分析・虐待予防と支援、保育者に求められること・脳から見た「健やかな育ち」 11 子どもの疾病とその対応（1）予防接種・新生児マススクリーニングの理解と対応 12 子どもの疾病とその対応（2）呼吸器疾患・消化器疾患・感染症の登園判断 13 子どもの疾病とその対応（3）食物アレルギー・その他のアレルギー疾患とその対応 				

	14 子どもの疾病とその対応（４）先天性疾患・その他の慢性疾患と保育での配慮 15 子どもの疾病とその対応（５）救急疾患と急変時の対応
授業時間外学修 （予習・復習）の内容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 ・子どもの健康に関する課題を提示します。その予習を行ってください。 ・毎回、学習目標を設定しますので、目標に沿って復習してください。 ・予習 90 分復習 90 分
成績評価方法	期末試験 100 点
教科書 （購入必須）	山下雅佳実・荒牧志穂他著『イラスト子どもの保健』東京教学社（2025 年）
参考書 （購入任意）	なし

科 目 名	子どもの食と栄養				
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260040280		
担 当 教 員 名	高野 良子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的事項を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と栄養・食生活との関連について説明できる。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教科書や関連するガイドライン、資料等を用いて食と栄養について基礎を学んだ後、課題・演習に取り組むことで理解を深めていく。				
	アクティブ・ラーニングの内容 離乳期の食について調査・調製し、指導時の留意点を抽出する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の栄養と食生活の意義 2 栄養に関する基礎知識 3 小児の発育・発達と栄養・食の基本 4 乳児期の食生活 乳児期の食機能の発達と成長 5 乳児期の食生活 乳汁栄養・離乳の基本 6 乳児期の食生活 離乳食 7 幼児期の食生活 幼児期の食機能の発達と成長 8 幼児期の食生活 9 学齢期・思春期の食生活 10 生涯発達と食生活 プレコンセプションから妊産婦、成人 11 家庭や児童福祉施設・学校における食事と栄養 12 食育の基本と内容 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、疾病・障がい 14 食物アレルギー、食の安全 15 まとめ 				
才 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書等の該当箇所を読み込むこと 復習：学習したことを自身の生活にも応用して、実践すること。				
成 績 評 価 方 法	定期試験 60%、レポート課題 25%、毎回のコメントシート 15%により総合的に評価する				

教科書 (購入必須)	「子どもの食と栄養 第3版」太田百合子、堤ちはる編、羊土社 「八訂食品成分表 2026」女子栄養大学出版部
参考書 (購入任意)	

科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学		
科 目 名 (英 語)	Social and Psychological Support for Child and Family	シラバスNo.	260040290
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な理解を促し、支援の方法などについて指導する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：__ DP4：__ DP5：__		
学 修 到 達 目 標	<p>(1) 生涯に亘る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。</p> <p>(2) 家庭・家族の意義や構造-機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。</p> <p>(3) 現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。</p> <p>(4) 子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察することができる。</p>		
受 講 の 留 意 点	授業に関係のない無断での長時間にわたる動画閲覧などは授業の取組評価に影響するため注意されたい。学びの理解を深めるため質問は授業中の演習時や授業後に直接尋ねるようにし、メールでの連絡は緊急の連絡事項のみとする。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健(心の健康)について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生み育てるとい生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、大福帳(シャトルペーパー)への記入、グループまたはペアワーク</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション 2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達 3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達 4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達 5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達 6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達 7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造-機能 8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係 9 家族の社会・文化・歴史的理解③：子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家族とその理解 13 特別な配慮が必要な子ども家庭の理解と援助 14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響 15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法 		
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予め指定した教科書について読みわからない用語などを調べる。授業終了時に提示されたワークシート等に取り組んだり、教科書や配布資料を読み返しておく。日頃から家族のあり方や子育てに関する話題などに関連する映像資料を観たりや新聞記事などを読むようする。レポート課題に取り組む。</p>		

成績評価方法	<p>(1) 授業の取組・発表 10点 (2) 毎回の大福帳(シャトルペーパー)記入 15点 提出毎に1点 (3) 提出物 25点(授業中に課す各種ワークシート 5点 中間レポート: 10回目までに提出) (4) 最終レポート 50点</p> <p>授業中に指示があった場合を除き、長時間の不必要な画面閲覧などスマートフォン利用については上記(1)減点対象とする。</p>
教科書 (購入必須)	芝野松次郎(他編)『事例で楽しく学ぶ子ども家庭支援の心理学』中央法規
参考書 (購入任意)	松本峰雄(監修)「子ども家庭支援の心理学 演習ブック」 ミネルヴァ書房

科 目 名	保育指導論				
科 目 名 (英 語)	Theory of Early Childhood care and Education	シラバスNo.	260040300		
担 当 教 員 名	下村 一彦				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎理論の理解を規程に、カリキュラムの意義、目的、内容について理解し論じることができる。 ・幼児期の発達特性や行動特性に基づき、子ども理解の重要性を論じることができる。 ・保育記録の意義や内容について理解し、分析的、実践的にまとめることができる。 				
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク等を含めるため、欠席や遅刻等をしないこと。 ・テキストの他に、幼稚園教育要領を常に持参すること。 				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>レポート課題に対し、能動的に調べ学習をする。また、そのレポートについて発表し、話し合う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、グループディスカッション、保育観察</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：保育施設における保育の現状 2 保育三法令と保育内容 3 保育施設におけるカリキュラムの意義と目的 4 子どもの遊びと保育者の援助① 遊びの意義と必要性 5 子どもの遊びと保育者の援助② 遊びのおもしろさの探究 6 子どもの遊びと保育者の援助③ 子どもが遊びで得る経験とその意味 7 環境を通して行う保育の意義① 子どもの姿に学ぶ 8 環境を通して行う保育の意義② 子どもの実態把握から計画へ 9 保育記録の意義 10 指導計画の意義と保育展開 11 行事の捉えと意義 日常から行事へのつながり 12 家庭・小学校との連携① 保育記録の活用 13 家庭・小学校との連携② 保育への多様な参画 14 多様な子どもの保育と支援 15 まとめ：子どもを取りまく社会と今後の課題 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。 復習：毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料やテキスト、指針や要領を参考に学習の補完を行うこと。</p>				
成 績 評 価 方 法	授業内レポート 30 点、期末レポート 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	磯部裕子他 (2023) 『「学び」が深まる実践へ 1』 ななみ書房				

参 考 書 (購 入 任 意)	磯部裕子他（2023）『「学び」が深まる実践へ 2』ななみ書房 磯部裕子他（2023）『「学び」が深まる実践へ 3』ななみ書房
----------------------------	--

科 目 名	保育内容総論				
科 目 名 (英 語)	Overview of Early Childhood Care and Education	シラバスNo.	260040310		
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資格要件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育および教育内容についての基本理念と構造を学習したうえで、保育および幼児教育施設におけるカリキュラムならびに指導計画編成の意義・目的について理解し、説明することができる。 ・保育および幼児教育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした、さまざまなパターンの指導計画を立案することができる。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業では、担当教員が作成したレジュメを配布し、それに沿って講義を行う。</p> <p>また、保育所保育指針等を用い、保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解したうえで、子どもの発達と成長を促すためのカリキュラムならびに各種指導計画の編成について、グループでの演習形式で実践的に学ぶ。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>教室でのグループディスカッション、グループワーク</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：保育内容・カリキュラムとは何か 2 保育内容・カリキュラムの歴史的変遷 3 カリキュラムの編成原理と構成要素 4 教育課程・保育の全体的な計画の編成とカリキュラム・マネジメント 5 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育内容・カリキュラムの理解 6 子どもの発達と保育内容・カリキュラム 7 保育・幼児教育における記録と評価 8 養護と教育の一体性と保育内容 9 これからの保育内容① 多様な保育ニーズとさまざまな保育形態 10 これからの保育内容② 多文化共生の保育 11 保育・幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容・カリキュラム 12 諸外国の保育内容・カリキュラム 13 保育・幼児教育における計画① 指導計画の作成（グループ・ワーク） 14 保育・幼児教育における計画② 計画の展開と評価（グループ・ワーク） 15 まとめ：子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係とは 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習としては、あらかじめ示す毎回の授業のキーワードについて、文献やインターネット等を利用して調べ、情報収集すること。</p> <p>復習としては、講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深めること。</p>				
成 績 評 価 方 法	中間課題：小テスト（15%）、指導案の分析（35%）、期末課題：指導計画の作成（50%）				
教 科 書 (購 入 必 須)	岩崎淳子・及川留美・粕谷巨正，2018『教育課程・保育の計画と評価 ―書いて学べる指導計画―』萌文書林。				

参 考 書
(購 入 任 意)

授業のなかで適宜紹介する。

科 目 名	保育内容・言葉				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content : Language	シラバスNo.	260040320		
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。 ・乳幼児期の言語発達を理解する。 ・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。 				
受 講 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育内容「言葉」についての幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容を確認するとともに、子どもの言葉の発達についての基本的知識を獲得する。それを基に、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 言葉の発達に関するディスカッション、および絵本や紙芝居の読み聞かせの演習等をおこなう。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 3 子どもの言葉の発達 1 乳児期の言語獲得 4 子どもの言葉の発達 2 幼児期のひとりごと 5 子どもの言葉の発達 3 幼児期の言葉から児童期の言葉へ 6 子どもの言葉の発達 4 自分の考えや思いを伝える言葉 7 言葉と身体 1 言葉以前の声 8 言葉と身体 2 身体と声の関係 9 言葉と身体 3 言葉の音を楽しむ 10 子どもの言葉を育む保育の実際 1 絵本 11 子どもの言葉を育む保育の実際 2 紙芝居 12 子どもの言葉を育む保育の実際 3 言葉遊び・わらべうた 13 模擬保育 1 指導案作成 14 模擬保育 2 指導案に基づく模擬保育 15 模擬保育 3 模擬保育の振り返り 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内容を振り返り、下記の参考書および関連文献を読む。				
成 績 評 価 方 法	中間課題 (40 点) および期末課題 (60 点) により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	授業時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	『子どもと言葉』(岡本夏木著、岩波書店) 『ことばと発達』(岡本夏木著、岩波書店)				

科 目 名	保育内容・人間関係				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content: Human Relationships	シラバスNo.	260040330		
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解し説明することができる ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・模擬保育を通じて、指導案の構成、教材研究、援助の実際を経験し、振り返りを通して改善するための視点を習得している。 ・現代社会と人間関係の関連について理解を深め、自らの関心を広げて保育に活かそうとする姿勢が身についている。 				
受 講 の 留 意 点	<p>グループに分かれての模擬保育にはできるだけ主体的に取り組むこと。</p> <p>手遊びやわらべうたなどの演習を屋内外で実施するため、動きやすい服装で受講すること。</p> <p>学びの理解を深めるため、質問は授業中の演習時や授業後に直接尋ねるようにすること。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>子どもが人に親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について基本的な知識を習得する。また幼児期の人間関係の発達の特徴については主に発達心理学の観点から学習する。指導計画や指導方法については、模擬保育を通して理解を深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション 大福帳（シャトルペーパー） グループワーク 模擬保育 遊び活動</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域「人間関係」とは 2 領域「人間関係」の「ねらい及び内容について」 3 領域「人間関係」の「ねらい及び内容について」 一緒に仲良く遊ぶの再考 4 遊びを通じた対人関係の発達を援助するうえで保育者がもつ役割 季節の遊び 5 乳幼児期の対人関係の発達（1）0～2歳 ルールのある遊びの実践 6 乳幼児期の対人関係の発達（2）3～6歳 ルールのある遊びの実践 7 子どもの協同的活動としての遊び：ルールのある遊び、インプロゲーム 8 特別な支援を要する子どもの対人関係の発達支援：親子遊びの紹介 9 遊びを通じた対人関係の発達—そもそも遊びとは何か 10 人との関わりを支える保育計画（絵本、わらべ歌、ICT） 11 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（1）活動内容の選択と立案 12 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（2）指導案作成 13 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（3）指導案作成 14 人との関わりを育てる保育や保育者の役割に関するグループ発表（4）模擬実践と振り返り 15 現代の子どもの人間関係を取り巻く諸課題 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 絵本や手遊び、領域「人間関係」に関連する遊びについて日頃から調べておく。授業で紹介された文献を読んだり、演習を通して気づいたことを記録することを通して知識習得に努める。</p>				
成 績 評 価 方 法	<p>(1) 授業の取組・発表 15 点 (2) 毎回の福帳（シャトルペーパー）記入 15 点 (3) 提出物 20 点（中間レポート 10 回目までに提出） (4) レポート 50 点</p> <p>授業とは関係のないスマートフォン利用については上記（1）減点対象とする。</p>				

教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	近喰晴子・小泉裕子(編著) 保育内容「人間関係」と指導法—考える、調べる、学び合う— 中央法規 副教材として使用する

科 目 名	保育内容・環境 I				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education: Environment I	シラバスNo.	260040340		
担 当 教 員 名	菊池 稔				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	保育内容「環境」のねらいと内容を説明できる。 保育内容「環境」の内容にあった活動を計画できる				
受 講 の 留 意 点	野外で活動する時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。 本講義は、知識を伝え記録することを重視しておらず、体験を通して体で知識や技能を覚えることに重きを置くので、主体的に行動しないと時間が無駄になることに注意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、保育内容「環境」のねらいを理解し、身近な自然・科学現象、水や土、園庭・地域環境、動物や伝統文化などを題材とした活動を体験的に学ぶ。実験遊びや自然物・水遊び、川遊び、動物介在活動等の事例を通して、幼児の主体的な気づきや探究心を育む環境構成とリスクマネジメントについて考察し、実践的な指導案作成力を養う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 科学遊びの体験・計画、グループワーク、工作活動、水遊びの体験・計画、野外活動				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・保育内容「環境」で目指す子どもの姿 2 身近な自然現象・科学現象を取り入れる保育①（実験遊びの体験） 3 身近な自然現象・科学現象を取り入れる保育②（教材研究） 中間課題①の出題 4 自然を活用した教材研究：採取物での工作活動を考える/森を活用する保育と注意点 5 水を活用した感覚遊びと留意点 6 アフォーダンスの視点から園庭環境デザインを考える 中間課題②の出題 7 幼稚園・保育所での川遊びの実践とリスクマネジメント 8 保育内容環境の指導①：グループで指導案を考える 中間課題③の出題 9 保育内容環境の指導②：活動準備 10 保育内容環境の指導③：発表①・ふりかえり 11 保育内容環境の指導④：発表②・ふりかえり 12 保育内容環境の指導⑤：発表③・ふりかえり 13 幼児期の動物介在教育の意義と留意点 中間課題④の出題 14 幼稚園・保育所での伝統文化・行事の実際 15 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：配布した資料を読み、分からない点を調べる。 復習：講義終了後に示すテーマに関する活動を考える（後日フィードバック）				

成績評価方法	コメントシート (20%) 中間課題 (40%) 期末課題 (40%)
教科書 (購入必須)	適宜教員の方で印刷し配布する
参考書 (購入任意)	降旗信一・菊池稔編著『持続可能な社会をつくる幼児期の ESD 論～子どもと環境』,人言洞 適宜教員の方で印刷し配布する

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education : Environment Ⅱ	シラバスNo.	260040350		
担 当 教 員 名	菊池 稔				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ◎ DP4 : ____ DP5 : ____				
学 修 到 達 目 標	領域「環境」に関わる活動を計画し実行できる。 様々な環境から教材を作成できる				
受 講 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。野外活動を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装を準備をすること。 本授業は、知識を伝え記録することを重視しておらず、体験を通して体で知識や技能を覚えることに重きを置くので、主体的に行動しないと時間が無駄になることに注意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、領域「環境」のねらいを踏まえ、身近な自然環境を活用したフィールドビンゴや身近な物による実験遊び、生命尊重を促す活動、標識・マークや季節の行事を扱う活動などを行う。野外保育のリスクマネジメントを学び、模擬保育やグループ発表を通して、環境への気付きや探究心を育む保育を計画・実践・省察する力を養う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 フィールドビンゴ作成、実験遊び、模擬保育活動、グループワークによる各種活動				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 身近な自然環境を活用したビンゴカードの作成（フィールドビンゴの教材化） 3 フィールドビンゴの体験と改善 中間課題① 4 身近な物を活用した実験遊び（STEAM 教育） 5 野外保育を計画する上でのリスクマネジメント 中間課題② 6 領域「環境」における模擬保育を構想する 7 グループ発表①2 班×30 分 8 グループ発表②2 班×30 分 9 グループ発表③2 班×30 分 10 グループ発表④2 班×30 分 11 活動のふりかえりと改善 12 生命尊重を促す環境教育活動 中間課題③ 13 標識やマークなどの概念獲得を促す活動 14 秋～冬の伝統行事を取り入れた活動を構想する 15 まとめ				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：配布した資料を読み、分からない点を調べる。 復習：講義終了後に示すテーマに関する活動を考える（後日フィードバック）				
成 績 評 価 方 法	コメントシート（20%） 中間課題（40%）				

	期末課題（40%）
教科書 （購入必須）	必要に応じて適宜指示する。（購入の必要はない）
参考書 （購入任意）	教員の方で適宜印刷して配布する。

科 目 名	保育内容・健康 I				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content : Health I	シラバスNo.	260040360		
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらいと内容を理解し、健康であることを人間の基本的な人権として理解し、心身ともに健康になるための指導法を修得する。 ・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解することができる。また、集団づくりの主体として、実践的にその意義と内容・方法を理解し身につける。 ・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。 				
受 講 の 留 意 点	参考文献・資料に目を通し、紹介した文献等について授業の事前事後に参照しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの全面発達を保障する保育・教育の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。				
	アクティブ・ラーニングの内容 遊びの企画・運営・振り返りをグループで話し合いながら実践する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について 2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの 3 子どもの心身の発育と発達 形態の発育、生理機能の発達などを学ぶ 4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ 5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際） 6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について 7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える 8 「健康」の具体的内容と保育指導の視点 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方 9 教材研究1（身体を使った遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを実践から学ぶ 10 教材研究2（身体を使った遊びの展開2）モノを使った遊びを実践から学ぶ 11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について実践から学ぶ 12 模擬授業の構想1（身体を使った遊びの展開3）自然を生かした遊びの指導の実践から学ぶ 13 模擬授業の構想2（身体を使った遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実践から学ぶ 14 模擬授業の構想3（身体を使った遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係 15 まとめと振り返り 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は授業で提示した文献資料の講読。復習は配布資料の再読、関連文献・資料を調べて読む。				
成 績 評 価 方 法	提出物 100点により評価する。資料内容の理解 80 点。関連文献資料の探索と要点整理・考察 20 点。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				

参 考 書
(購 入 任 意)

文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館。

科 目 名	保育内容・健康Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content : Health Ⅱ	シラバス№.	260040370		
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<p>保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」の観点から、健康であることが人間の権利であることを理解し、その実現のための子どもの発達を保障する実践的課題と方法について説明することができる。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について問題点を把握することができる。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための保育者の具体的援助や指導について理解する。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について説明することができる。 				
受 講 の 留 意 点	テキスト『発達の扉<上>』を事前に読み、わからない用語について調べておく。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 テーマに即してグループワークをおこない、内容をまとめて発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠。 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動。 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割について学ぶ。 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える。 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的な生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ。 7 基本的な生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する。 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ。 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方。 10 模擬授業の構想1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導の実際。 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ。 12 模擬授業の構想2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導の実際。 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる。 14 食育の取り組みから学んだことを実践する。 15 まとめと振り返り。 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業で提示した文献資料の講読。復習は、配布資料の再読と関連文献の検索と講読。</p>				

成績評価方法	提出物100点により評価する。資料内容の理解80点。関連文献資料の探索と要点整理・考察20点。
教科書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館。白石正久『発達の扉<上>』かがわ出版、1994年。
参考書 (購入任意)	授業の中で適宜紹介する。

科 目 名	保育内容・表現 I				
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Content: Expression I	シラバスNo.	260040380		
担 当 教 員 名	堀川 真・三川 美幸・石本 啓一郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。				
受 講 の 留 意 点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用など、多方向から子どもの表現を引き出す表現媒体における支援方法について学ぶ。グループ・ワーク、園児との交流を踏まえた模擬保育等から、指導上の配慮についても理解を深める。				
	課題解決型学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、模擬保育、劇あそび、実技				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション (担当：三川) 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本) 3 子どもの表現の発達 (担当：石本) 4 子どもの表現の支援/指導案の用語 (担当：三川) 5 美的感動の喚起 (担当：堀川) 6 素材との出会い/指導案の読み方 (担当：堀川) 7 行事の中での表現活動① グループ活動：オリエンテーション (劇遊び/音楽表現/壁面装飾) (担当：三川・石本・堀川) 8 行事の中での表現活動② グループ活動：テーマ設定/役割の明確化 (担当：堀川・三川・石本) 9 行事の中での表現活動③ グループ活動：内容の具体化 (担当：堀川・三川・石本) 10 行事の中での表現活動④ グループ活動：表現の手法/情報機器活用 (担当：石本・堀川・三川) 11 行事の中での表現活動⑤ グループ活動：活動の展開 (担当：石本・堀川・三川) 12 行事の中での表現活動⑥ グループ活動：行事運営 (担当：三川・石本・堀川) 13 行事の中での表現活動⑦ グループ活動の融合 (担当：三川・石本・堀川) 14 模擬保育・指導案作成 (担当：三川、堀川、石本) 15 まとめ (担当：三川、堀川、石本)				
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内で指定する教科書の予習およびワーク課題の提出。授業内における疑問点および振り返りを整理し、コメントシートを活用して提出する。グループ活動における過程での学びにおけるサマリーを提出する。				
成 績 評 価 方 法	授業中の課題への取り組み (60点)、期末課題：レポート (40点) により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	今井真理(編), 2016『保育の表現技術 実践ワーク-かんじる・かんがえる・つくる・つたえる-』教育情報出版 厚生労働省, 2018『平成 30 年 3 月 保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省, 2018『平成 30 年 3 月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府ほか, 2018『平成 30 年 3 月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館				

参 考 書
(購 入 任 意)

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）			
科 目 名（英 語）	Early Childhood Care and Education Content: Music Expression II	シラバスNo.	260040390	
担 当 教 員 名	三川 美幸			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	音楽教員としての経験を活かし、子どもの音楽表現を引き出す保育援助技術について実践的な教育を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<p>「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び展開方法についてより高度な知識・技能を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を理解し、指導計画の立案・活動の展開を行うことができる。 ・表現の多様性を理解し、子どもの活動について援助を行うことができる。 ・子どもの音楽表現について理解し、適切な支援について把握している。 			
受 講 の 留 意 点	動きやすい服装で受講すること。毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性及び表現に関する事項について、グループワークなどの実技を交えながら学ぶ。また、音楽表現活動における子どもの発達と支援についての理解を深化させる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容： PBL、ペア・ワーク、グループ・ワーク、グループ討議、プレゼンテーション</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育における音楽表現について 2 子どもの発達と音楽表現① 音楽的表現 3 子どもの発達と音楽表現② 発達段階と音楽活動 4 子どもの音楽表現とその発達③ ICTの活用 5 音を感じる① 音への気づき 6 音を感じる② 音あそび 7 音を感じる③ 創造性について 8 音楽教育メソッド①オルフのアプローチについて 9 音楽教育メソッド②オルフ楽器と創造性 10 音楽活動の指導 11 音楽活動の実践①指導案作成 12 音楽活動の実践②指導案の発表 13 音楽活動の実践③模擬保育 14 音楽活動の実践④模擬保育の振り返り、小学校との接続 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 教科書の指定箇所を読み、要点・疑問などについて整理する。授業内容を振り返り、主要な概念・キーワードなど自身の学びについて整理する。リアクションペーパーを活用し、要点をまとめ提出する。</p>			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー（10%）、レポート課題・グループ発表（40%）、課題提出（50%）によって総合的に評価する。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>1) 石井玲子編著、『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」：音遊びから音楽表現へ』、教育情報出版 2) 文部科学省、『幼稚園教育要領』、フレーベル館 3) 厚生労働省、『保育所保育指針』、フレーベル館 4) 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>1) 小林美実編、『こどものうた 200』、チャイルド本社 2) 小林美実編、『続こどものうた 200』、チャイルド本社</p>

科目名	保育内容・表現Ⅱ（造形）			
科目名（英語）	Early Childhood Care and Education Content: Expression II (Art)	シラバスNo.	260040400	
担当教員名	堀川 真			
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態 演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件 保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目。			
対応するディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___○___ DP3：___◎___ DP4：___ DP5：___			
学修到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえて造形表現活動を実践し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につけて子どもとかわることができる。			
受講の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。			
授業の概要とアクティブ・ラーニングの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を高めることを目的として、前半の「多様な素材」においては、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した造形活動支援ができるようにする。 ・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。 <p>アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう。</p>			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 多様な素材（1）厚紙：ハンペルマン 3 多様な素材（2）箱：カメラ 4 多様な素材（3）土：石膏型取り 5 多様な素材（4）水：染めあそび 6 多様な素材（5）古紙：新聞紙であそぶ 7 多様な素材（6）廃材：生きものをつくる 8 多様な素材（7）廃材：街をつくる 9 パネルシアター(1) しかけの理解と内容の検討 10 パネルシアター(2) 制作・線描 11 パネルシアター(3) 制作・着色 12 パネルシアター(4) 発表会準備 13 パネルシアター(5) 発表会・前半 14 パネルシアター(6) 発表会・後半 15 まとめ 			
授業の予習・復習学修時間の割り当て	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 予習：ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。			
成績評価方法	授業内容を理解した作品の制作と提出(70%)及び発表(30%)により評価する。			
教科書（購入必須）	必要に応じてその都度、プリントを配布する。			
参考書（購入任意）	『幼児の造形表現』（渡辺一洋 ななみ書房）			

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）				
科 目 名（英 語）	Early Childhood Care and Education Content : Expression II (Language)	シラバスNo.	260040410		
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における言語に関わる活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
受 講 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	まず、子どもの想像力の発達についての知識を学ぶ。それに基づいて、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容 子どもの表現発達に関するディスカッション、およびワークショップ等をおこなう。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 想像力の発達① 人間に固有な想像力 3 想像力の発達② 現実と想像の関係 4 子どもの表現としての行為① 身体的な遊び 5 子どもの表現としての行為② 非言語のやりとり 6 子どもの表現としての行為③ 行為の意味の多様性 7 言葉の創作ワークショップ① 非言語音 8 言葉の創作ワークショップ② 非言語音のやりとり 9 言葉の創作ワークショップ③ 連句 10 言葉の創作ワークショップ④ 詩的表現 11 子どもの言葉集めワークショップ① 子どもの言葉 12 子どもの言葉集めワークショップ② 多様な言語表現の共有 13 文字遊びワークショップ① 文字の見立て 14 文字遊びワークショップ② 多様な文字表現の共有 15 まとめ				
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内容を振り返り、下記の参考書および関連文献を読む。				
成 績 評 価 方 法	授業中のディスカッション等への参加（40点）および期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	授業時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	『子どもの世界をどう見るか—行為とその意味』（津守 真、日本放送出版協会）				

科 目 名	乳児保育 I				
科 目 名 (英 語)	Infant Care and Education I	シラバスNo.	260040420		
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的・役割と、その歴史の変遷について理論的にとらえ理解する。 ・3歳未満児における発達と、それをふまえた保育内容や運営体制について理解する。 ・多様な乳児保育のあり方に関する現状と課題を知り、家庭や地域、また職員間の連携について理論的にとらえ理解する。 				
受 講 の 留 意 点	各自の端末で関連する動画などを閲覧することがあるが、授業に関係のない無断での長時間にわたる動画閲覧などは授業の取組評価に影響するため注意されたい。学びの理解を深めるため、質問は授業中の演習時や授業後に直接尋ねるようにし、メールでの連絡は緊急の連絡事項のみとする。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>乳児保育の基本理念・歴史の変遷・現代的課題について学び、現代社会において乳児保育が果たす役割について考察する。そのために、乳児期の子どもの発達プロセスや、その発達を支える周囲の社会・世界のあり方を総合的に把握したうえで、保育士に求められる基本的な役割と留意点を学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション 大福帳（シャトルペーパー） ロールプレイ</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 乳児保育の歴史 3 6カ月未満児の発達と保育 4 6か月から1歳未満児の保育 5 1歳児の発達と保育 6 2歳児の保育 7 移行期（3歳児）の保育 8 乳児保育の内容と方法 遊びを中心に 9 保育の記録と計画 10 特別な支援を要する子どもの乳児保育 11 乳児保育が行われるさまざまな施設 12 健康と安全 13 保護者との連携や支援 14 職員間・地域の関係機関との連携 15 乳児保育の現状と課題 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予め指定した教科書について読みわからない用語などを調べる。授業終了時に提示されたワークシート等に取り組んだり、教科書や配布資料を読み返しておく。レポート課題に取り組む。</p>				
成 績 評 価 方 法	<p>(1) 授業の取組・発表 10点 (2) 毎回の福帳（シャトルペーパー）記入 15点 提出毎に1点 (3) 提出物 25点（授業中に課す各種ワークシート 中間レポート） (4) 最終レポート 50点</p> <p>授業中に指示があった場合を除き、長時間の不必要な画面閲覧などスマートフォン利用については上記（1）減点対象とする。</p>				

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>乳児保育研究会編 「資料でわかる 乳児の保育新時代」 ひとなる書房</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>服部敬子(編)『子どもとつくる 1 歳児保育: イッショ!がたのしい (子どもとつくる保育・年齢別シリーズ)』 ひとなる書房厚生労働省『保育所保育指針』(平成 29 年告示) 松本博雄・第一そだち保育園(編)『子どもとつくる 0 歳児保育: 心も体も気持ちいい (子どもとつくる保育・年齢別シリーズ)』 ひとなる書房 西隆太郎・伊藤美保子(著)『動画で学ぶ乳児保育: 0・1・2 歳児の遊びと援助』日となる書房 大浦賢治(編著)『実践につながる新しい乳児保育—ともに育ち合う保育の原点がここに』ミネルヴァ書房 汐見稔幸・松永静子(編)『映像で見る 乳児の保育 —遊びと生活—』エイデル研究所 富田昌平(編)『子どもとつくる 2 歳児保育: 思いがふくらみ響きあう (子どもとつくる保育・年齢別シリーズ)』 ひとなる書房</p>

科 目 名	乳児保育Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Infant Care and Education Ⅱ	シラバスNo.	260040430	
担 当 教 員 名	滝澤 真毅、田口 憲司			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件 保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児における子どもの発達の特徴をふまえた保育者のあり方について理解する。 ・3歳未満児にふさわしい生活、遊び、環境構成、援助および配慮について具体的かつ実践的に理解する。 ・乳児保育における計画の意義と具体的展開について理解する。 			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	乳児保育Ⅰおよび保育実習Ⅰ等での学修を受けて、3歳未満児の発達を踏まえた保育の基本を振り返りつつ、具体的な子どもの生活や遊びの様子、環境構成のあり方、そしてそれを支えるための保育者の援助と計画のあり方を学ぶ。			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>授業のなかでは、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、乳児保育で実際に使用する玩具等の作成や各種演習、また現場の保育者をゲストスピーカーとした講演などを通して、理論と実践の両面から理解を深めていく。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション —乳児保育Ⅰと保育実習Ⅰを受けて— 2 乳児保育の基本を再考する(1) —乳児保育における未満児と保育者の関係性— 3 乳児保育の基本を再考する(2) —子どもの主体性と応答のかかわり— 4 乳児保育の基本を再考する(3) —集団生活の意義と配慮— 5 乳児保育の基本を再考する(4) —遊びと環境— 6 乳児保育における援助(1)—乳児保育における1日— 7 乳児保育における援助(2)—健康・安全・事故— 8 乳児保育における援助(3)—食事— 9 乳児保育における援助(4)—排泄と清潔— 10 乳児保育における援助(5)—睡眠— 11 特別な配慮を要する子ども —病気・障害・虐待・ルーツ— 12 乳児保育における計画(1) —子どもの姿・活動の記録— 13 乳児保育における計画(2) —記録から指導計画へ— 14 乳児保育における計画(3) —指導計画を作成するときのたいせつなことは— 15 まとめと振り返り 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習 (30 分) 事前に参考書やこれまでの授業の教科書内における関連項目に目を通したり、次回講義とかかわりの深いキーワードについて調べたりしておくこと。</p> <p>復習 (30 分) 授業内で学んだ内容や追加資料、また紹介した関連書籍を一読するなどして理解を定着させること。</p>			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーおよび授業内の製作物 20%、期末レポート 80%			

教科書 (購入必須)	指定しない。
参考書 (購入任意)	乳児保育研究会(編)『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房 (その他、授業の進行に応じて適宜配布・紹介する)

科 目 名	就学児保育 A (思春期の支援)			
科 目 名 (英 語)	Care for School-Aged Children A: Supporting Adolescents	シラバスNo.	260040440	
担 当 教 員 名	新任教員・鈴木 勲・奥村 香澄			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	<p>児童相談所や学校、地域の支援機関での実務経験をもつ教員が、思春期の子どもが抱えやすい課題と、その支援に必要な視点について解説する。授業では、子どもの様子の変化（元気がない、落ち着かない、話し方や行動が普段と異なるなど）をつかむ方法や、信頼関係の築き方、友人関係・いじめ・家庭背景に関わる問題への対応を、事例を通して学ぶ。これらを通じて、支援に取り組む際に大切となる視点を養う。</p>			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の就学児を取り巻く状況を理解し、就学児保育の意義と役割を説明できるようになること。 2. 就学児期の生活・学習・人間関係の特徴を理解し、子どもの変化（表情・言葉・行動）やサインに気づくための視点を身につけること。 3. 子どもと信頼関係を築くために必要な関わり方を理解し、反発・強い主張・集中困難・話の伝わりにくさなど、多様な場面に応じた支援方法を考えられるようになること。 4. 友人関係のトラブル、いじめにつながる初期サイン、登校しぶりや学校生活への不安など、就学児にみられる心の課題を理解し、適切な対応と早期支援の方法を説明できるようになること。 5. 家庭の状況や生活リズムの乱れが子どもの行動にどのように影響するかを理解し、日常生活を安定させるための支援の方法を考えられるようになること。 6. 子どもを支えるうえで必要となる学校・家庭・地域との連携の基本的な進め方を理解し、授業で学んだ内容を実際の支援に生かすための視点を整理できるようになること。 			
受 講 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 2. 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 3. 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 4. 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>思春期は、心身の発達が急速に進む時期であると同時に、それまでの心の課題や育ちの問題が、いじめ・非行・不登校などの「問題行動」として表れやすい時期でもある。これらの行動への対応は、子どものその後の成長に大きな影響を与える重要なプロセスである。</p> <p>本授業では、思春期の子どもたちに特有の変化や背景を踏まえ、彼らの行動をどのように理解し、どのように支援していくかを学ぶ。表面的な行動のみに着目するのではなく、発達、環境、心理的背景を総合的に捉え、適切な支援につなげる視点を身につけることを目的とする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>本授業では、実際の事例を取り上げながら、小グループで課題への対応策を検討する演習を行う。また、学生が児童相談所職員や子ども、保護者などの役割を演じ、相談場面を再現することで、対話の進め方や問題解決のプロセスを体験的に学ぶ。さらに、毎回の授業の終わりには意見交換の時間を設け、多角的な視点から理解を深める。学んだ内容や気づき、疑問点はリフレクションジャーナルにまとめ、学習を振り返る機会とする。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／就学児を取り巻く現状を知る 2 就学児期の生活・学習・人間関係の特徴 3 子どもの変化に気づくための基本（表情・行動・言葉） 4 子どもと信頼関係を築くための関わり方 5 落ち着かなさや集中しにくさへの対応 6 話が伝わりにくい場面への工夫と支援 7 反発・強い主張がみられる場面への対応 8 友人関係で起こりやすいトラブルと関わり方 9 いじめにつながる初期サインと早めの対応 10 登校しぶりや学校生活に不安のある子への支援 11 家庭の状況が影響する子どもへの関わり方 			

	<p>12 日常生活の支え方の基本</p> <p>13 生活リズムが乱れがちな子への支援</p> <p>14 学校・家庭・地域との連携の進め方</p> <p>15 まとめ／支援に生かす視点の整理</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習では、次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。 復習は、講義内容を振り返り、考えを深めること。</p>
成績評価方法	<p>提出物 60%、講義における取組 40%</p>
教科書 (購入必須)	<p>適宜資料等を配布する。</p>
参考書 (購入任意)	<p>各教員が授業の中で適宜紹介する。</p>

科 目 名	就学児保育B（学童保育）				
科 目 名（英 語）		シラバスNo.	260040450		
担 当 教 員 名	河野 和枝				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	共同学童保育所勤務（パート）や一般社団法人日本学童保育士協会の実施する「学童保育士」認証講座講師の経験を持つ教員が、学童保育所の目的や社会的存在意義・役割、課題を示し、利用する子どもや保護者を理解し、実践者・学童保育士を養成する授業である。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の理念・歴史・制度について理解し実践に活用できる。 ・学童保育所を利用する子どもの発達状況、生活環境を理解し発達成長を支えることができる。 ・学童保育所を利用する保護者の生活実態に寄り添い共同の子育て観を共有することができる。 ・学童保育士の業務内容と専門性を身につけ保育実践に生かし課題解決できる力量を培う。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学童保育とは、児童福祉法で、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や学童保育士の専門性について理解し現場で発揮できる力量を獲得する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに設定されるテーマについてグループ討議で意見集約しグループ発表による意見交流を行い異なる視点や観点を深める学びを導く。また学童保育の現場から学ぶ機会を設け学童保育の実際を体得する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学童保育の目的と役割～放課後児童クラブ運営指針の概要について（講義と演習 6対4） 2 保育に活かす関係法と施策の歴史の変遷（講義） 3 学童期の子どもの生活と発達（講義と演習 6対4） 4 学童保育所に通う子どもの理解（講義と演習 6対4） 5 子どもの健康・安全・衛生（講義と演習 6対4） 6 学童保育の保育計画と生活づくり（講義と演習 6対4） 7 障がいのある子どもを含めた生活づくり（講義と演習 6対4） 8 学童保育での食事（講義と演習 6対4） 9 学童保育の役割と家族支援 10 保護者との連携・地域との連携（講義と演習 6対4） 11 学校や関係機関との連携（講義と演習 6対4） 12 学童保育士の専門性と子ども観（講義） 13 学童保育所視察（1）公設学童保育所（実習） 14 学童保育所視察（2）私設学童保育所（実習） 15 まとめ（演習） 				
授 業 時 間 外 学 修 （予 習 ・ 復 習）の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各回の授業テーマに合わせ『放課後児童クラブ運営指針』の内容を予習すること 復習：毎回配付する資料に「まとめ（課題）」を提起するので、基づき復習しておく</p>				

成績評価方法	課題の取組状況（30点）と毎回のコメントシート（20点）、レポート（50点）等で評価する。 学期末レポートの締めきりは7月21日
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	『学童保育を哲学する—子どもに必要な生活・遊び・権利保障』増山均著 自治体研究社 『静かだったら、学校と同じじゃん—学童クラブの窓から』石田かづ子・増山均著、編集 新日本出版社

科 目 名	病児・病後児保育				
科 目 名 (英 語)				シラバスNo.	260040460
担 当 教 員 名	高嶋 愛里				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	<p>小児看護の経験を持つ教員が、子どもが病児・病後児の施設・事業所などによる保育、臨床の場の保育について教授する。</p> <p>病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。事例による演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。</p>				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1： <input type="radio"/> DP2： <input checked="" type="radio"/> DP3： <input type="radio"/> DP4： <input type="radio"/> DP5： <input type="radio"/>				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気と共に生活する子どもたちを理解する 2. 病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育を行う際、保育士として求められる観察や対応方法を修得する 3. 家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ 				
受 講 の 留 意 点	保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加することを望みます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>ケーススタディを取り入れ、グループで保育計画を立てていきます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有していきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 病児・病後児保育とは 保育・看護の意義と専門性、病児保育の特徴、歴史、病児・病後児保育の現状と課題 2 タイプ別（施設型と訪問型）の病児保育 病児保育の一日（病児保育施設の一日）、病児保育室の特徴 3 医療・病院施設における病児保育 小児病棟での子ども達の生活、病児保育の一日、療養環境、子ども専門病院の施設設備、集団保育と個別保育（医療保育実践） 4 病気とともに生活している子どもの理解 1 慢性疾患を抱える子どもたちの生活状況 5 病気とともに生活している子どもの理解 2 事例学習、子どもの状況を理解 6 病気を持っている子どもの理解、病気についての捉え方と認知発達 保育の中にあるプレパレーション、病気の児のきょうだいの気持 7 保育施設における病児保育 1 医療的な配慮が必要な子どもの保育者の役割 8 保育施設における病児保育 2 医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための準備、医療的ケアの実際 9 医療的ケア児と学校教育、保護者の思い 講演会：学校現場の教諭、保護者から 10 病気を持つ子どもの保育と保育計画 様々な配慮を要するアレルギーのある子どもの保育、腎疾患で安静が必要な子どもの保育、小児がんで感染対策が必要な子どもの保育 11 保育計画の立て方 事例を基に思考過程 12 保育計画 グループによるディスカッション 13 保育計画 				

	<p>グループによるディスカッション</p> <p>14 保育計画 報告会</p> <p>15 病児、病後児保育 まとめ</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (30 分)、復習 (30 分) 保育計画は、個人学習を先に行い、その後にグループディスカッションになります。事前に自己学習が必要です。実施後は事例の課題があります。振り返りながら課題作成をお願いします。</p>
成績評価方法	<p>課題レポート 3 回 (20 点×3)</p> <p>保育計画課題レポート 1 回 40 点 合計 100 点</p>
教科書 (購入必須)	<p>資料を配布します。</p>
参考書 (購入任意)	

科 目 名	子どもの健康と安全				
科 目 名 (英 語)	Children's Health and Safety	シラバスNo.	260040470		
担 当 教 員 名	笹尾 あゆみ				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が、子どもの養護、身体計測、緊急時の対応を教授する。 乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について、演習を通して学ぶ。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	1. 乳幼児をこころよくできる養護について実施できる 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍測定を実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて実施できる。 4. 安全な保育環境・衛生管理について説明することができる。				
受 講 の 留 意 点	・小児母性看護実習室使用します。上履き、エプロンを持参してください。服装は動きやすいものとし、爪も短く切ってください。 ・技術は2コマ続けて実施します。欠席時にご注意ください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもに係る時に必要とされる技術演習です。毎回、デモンストレーション後に実施します。 アクティブ・ラーニングの内容 実施体験学習				
授 業 の 計 画	1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 日常における養護 着替え・おむつ交換・沐浴1 3 日常における養護 着替え・おむつ交換・沐浴2 4 保育環境の整備と保育現場における衛生管理（指導技術）手洗いの仕方1 5 保育環境の整備と保育現場における衛生管理（指導技術）手洗いの仕方2 6 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 発育状態を知る：身体計測1 7 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 発育状態を知る：身体計測2 8 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 健康状態を観る：バイタルサイン測定1 9 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康 健康状態を観る：バイタルサイン測定2 10 傷害が発生した場合の対応 応急処置：出血、骨折・脱臼・打撲の固定法 など1 11 傷害が発生した場合の対応 応急処置：出血、骨折・脱臼・打撲の固定法 など2 12 保育の場における薬管理 保育所で預かることができる薬、薬の飲ませ方1 13 保育の場における薬管理 保育所で預かることができる薬、薬の飲ませ方2 14 いざというときの応急処置 心肺蘇生法、AED、異物除去（ハイムリック、背部叩打法）1 15 いざというときの応急処置 心肺蘇生法、AED、異物除去（ハイムリック、背部叩打法）2				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：講義・演習に関連する教科書の章を読み込む。 復習：講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。講義・演習内容に関連した書籍を読む				
成 績 評 価 方 法	課題提出と記載内容により評価する 100 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	社会的養護Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Alternative CareⅡ	シラバスNo.	260040480		
担 当 教 員 名	小山 貴博				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童養護施設を中心に、他の児童福祉施設や里親制度など、社会的養護の法制度、支援のシステム、生活している子どもたちの実情などを学び、自立支援のあり方などについて考える。児童問題全体にわたり取り上げたいが、特に被虐待児童の理解と支援について重点をおいてすすめたい。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：__ DP4：__ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。				
受 講 の 留 意 点	社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会的養護の実際について理解を深め、子ども達や保護者の置かれた状況について、多方面から考える。そのうえで、望ましい支援について教員と学生が一体となって考察を加える。				
	アクティブ・ラーニングの内容 各回テーマを提示して、受講生同士、時には担当教員と共にディスカッションを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（講義の概要と進め方） 2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状 3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム 4 施設養護の実際Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状 5 施設養護の実際Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実 6 施設養護の実際Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護 7 家庭的養護の実際～里親制度と養子縁組制度 8 施設養護の実際Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較 9 施設養護の実際Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援 10 施設養護の実際Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設） 11 施設養護の実際Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設） 12 ケース記録・生活記録の意義と記録法 13 自立支援計画の策定の意義と方法 14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの 15 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：講義の事前検討 復習：講義の振り返り				
成 績 評 価 方 法	筆記試験：100%				
教 科 書 (購 入 必 須)	講義時に適宜資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義時に適宜資料を配布する。				

科 目 名	子育て支援				
科 目 名 (英 語)	Parenting Support	シラバスNo.	260040490		
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、子育て支援の基礎、応用について教授する。内容には、子育て支援の概要、体系、方法、技術、関係機関との連携や協働などを含む。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	1 保護者への相談、助言、情報提供、行動見本の提示等に関する特性と展開を理解する。 2 実践事例を通じて、様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法を具体的に理解する。				
受 講 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインやオンデマンドでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。				
	アクティブ・ラーニングの内容 子ども・子育て機関の事例をもとに、小グループで討議し、具体的な子育て支援策を考案する。 学生が保育士、保護者、児童の役割を演じ、実際の支援シーンを再現する。 それぞれのトピックについての意見交換を行い、多角的な視点からの理解を深める。 グループまたは個人で、実際の子育て支援プロジェクトを計画し、その内容を報告する。 各活動後にフィードバックを行い、自己の学びを振り返る。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応 14 要保護児童等の家庭に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。 復習は、講義内容を振り返り、考えを深めること。				
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーの内容 75%				

	学科末レポート 25%
教科書 (購入必須)	適宜資料等を配布する。
参考書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。

科 目 名	子ども理解と教育相談			
科 目 名 (英 語)	Understanding Children and Educational Counseling	シラバスNo.	260040500	
担 当 教 員 名	鹿嶋 桃子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援 NPO などにおいて教育相談の経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、指導上の省察や記録の仕方について知る。 ・ 発達障害についての理解と特別な支援を必要とする保育の留意点について説明できる。 ・ 乳幼児の発達や保育に関する保護者への共感的理解や援助を知る。 ・ 保育者に求められるカウンセリングマインドについて学び、事例に基づいて対応を検討することができる 			
受 講 の 留 意 点	授業中の演習には積極的な姿勢で取り組むことを期待する。第2回目以降、個人またはグループによる演習を行い、その記録を課す。また事例検討については、教育相談の実際について理解を深めるために真摯な姿勢で臨むことを期待する。スマートフォンについては調べ学習・撮影（観察記録等）など、授業目的で使用する場合は指示する。無断使用など周囲の妨げとなる行為等があった場合は評価に影響することがある。学びの理解を深めるため、質問は授業中の演習時や授業後に直接尋ねるようにする。メールでの連絡は、緊急の連絡事項のみとする。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>日々の保育活動のなかで子どもたちが見せる姿から、その特長や発達そして支援のニーズを把握するために必要となる基礎的知識や、重要な発達障害に関する基本的理解を深める。また近年の保育者は子どもたちの保育だけではなく、子育て支援の役割が期待されている。そこで保護者への子育て支援場面において必要とされるカウンセリングマインドや基本的なカウンセリング技法について学ぶ。また保育者が行う相談援助の役割は、子どもの个体史や子どもを取り巻く社会文化を含めた広い視野からその発達特性を理解し、支援することを通じて果たされることを理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、事例検討、ロールプレイ、グループワーク、大福帳（シャトルペーパー）への記入</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育の場における教育相談の基本的視点 2 子どもの発達理解と相談・支援 3 保護者への対応と子育て支援 4 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり① 5 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり② 6 子どもの発達とアセスメント 7 保育場面でのカウンセリング技法の活用①カウンセリングの基本的事項 8 保育場面でのカウンセリング技法の活用②カウンセリングの技法、コミュニケーションスキル 9 保育場面でのカウンセリング技法の活用③受容技法、繰り返し技法、明確化技法 10 保育場面でのカウンセリング技法の活用④支持技法、質問技法 11 子ども相談と連携：園や地域での専門職連携とソーシャルワーク 12 保育者の専門性と相談活動 13 基礎的対人関係のトレーニング 14 事例検討（1）保育・教育相談の実際 15 事例検討（2）保育・教育相談の実際 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予め指定した教科書について読みわからない用語などを調べる。授業終了時に提示されたワークシート等に取り組んだり、教科書や配布資料を読み返しておく。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>(1) 授業の取組・発表 10 点 (2) 毎回の大福帳 (シャトルペーパー) 記入 15 点 (3) 提出物 25 点 (授業中に課す各種ワークシート 中間レポート 10 回目までに提出) (4) レポート 50 点 授業中に指示があった場合を除き、長時間の不必要な画面閲覧などスマートフォン利用については上記 (1) 減点対象とする。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>小田豊・秋田喜代美 (編) 「子どもの理解と保育・教育相談」 みらい</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	児童文化演習			
科 目 名 (英 語)	Seminar on Children's Culture	シラバス No.	260040510	
担 当 教 員 名	堀川 真・石本 啓一郎			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面に活用することができる。			
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を高めることを目的として、絵本読み聞かせの実演を全員に課す。 ・子どもの感性を高めることを目的として、展開可能な工作指導の技術を身につける。 ・子どもに向き合うことを想定し、日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。 ・適切な作品理解のために、絵本作家による講義を通して絵本の理解を深める。 			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう</p>			
授 業 の 計 画	1	オリエンテーション (担当:堀川)	16	影絵劇 (1) 構想・脚本の制作
	2	お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17	影絵劇 (2) 人形・背景をつくる
	3	お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18	影絵劇 (3) 発表準備・人形操作および光の理解と工夫
	4	お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19	影絵劇 (4) 発表準備・人形操作および光の工夫と修正
	5	お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20	影絵劇 (5) 発表会
	6	お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21	動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)
	7	お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	22	動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)
	8	お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	23	動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)
	9	人形劇 (1) 構想・脚本の制作	24	動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)
	10	人形劇 (2) 役割の分担	25	動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)
	11	人形劇 (3) 人形をつくる	26	動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)
	12	人形劇 (4) 人形と背景をつくる	27	動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)
	13	人形劇 (5) 発表準備・人形操作の理解と工夫	28	動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)
	14	人形劇 (6) 発表準備・人形操作の工夫と修正	29	動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)
	15	人形劇 (7) 発表会	30	動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	総学修時間 90 時間（2 単位×90 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 予習：ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。
成績評価方法	授業内容を理解した作品の制作と提出(70%)及び発表(30%)により評価する。
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。
参考書 (購入任意)	「どうぶつえんガイド」(あべ弘士 福音館書店)

科 目 名	自然保育実践演習		
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education in Nature	シラバスNo.	260040520
担 当 教 員 名	三井 登・森田 隆行・麻生 翼		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u> </u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u> </u>		
学 修 到 達 目 標	自然の中で生活することができる。自然に関する科学的知識、人と自然との共生的な関わりについて説明できる。自然体験リーダーとして自然の中で遊びを創り出すことができる。自然の中での活動を通して、他者の存在を尊重し、よき集団をつくるために行動することができる。		
受 講 の 留 意 点	健康上の配慮が必要な学生は事前に相談すること。配布した資料や、野外活動で見た自然界の諸々のことについて、授業後に図鑑などで調べてその不思議さ複雑さなどを理解すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	この授業は、子ども（人間）の発達と自然の関係について理論的に学ぶだけでなく、地域の自然のなかで保育実践を構想・実践し、自然の中での生活と遊びの方法を習得することを目的とする。子ども（人間）と自然の関係に関する理論と、広く人間と自然のあり方や文化について学ぶ。四季を通じた自然の中での生活や遊びを構想し実践することを通して、自然保育実践の方法的理解を深める。方法の習得によって、自然体験リーダーの素養を身につける。とりわけ、仲間と共に自然の中で生活することの楽しさを実践的に理解する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 テーマに即してグループワークを行い発表する。リーダーを中心にして、クラス全体で野外活動の企画・運営・実践を展開し、その中でグループでの話し合いや活動も行う。		
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 道北の自然。 2 春の森－名寄の森あるき。 3 保育における自然－豊かな自然を生かす－。 4 保育における自然－都市部の実践 身近な自然を感じる－。 5 北大雨竜研究林に関する事前学習。 6 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）。 7 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）。 8 先住民族と自然。 9 野生動物と人間。 10 リーダー論。 11 自然の中で生活する－住居－。 12 自然の中で生活する－食器をつくる－。 13 自然の中で生活する－火おこし ご飯を炊く－。 14 自然の中で生活する－食事を作る 汁物を作る－。 15 自然の中で生活する－野山に自生するものを食べる－。	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	自然の中で生活する－野山で自生するものを食べる－。 秋の北大雨竜研究林に関する事前学習。 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）。 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）。 自然の中で遊ぶ－秋 収穫を祝う－。 自然の中で遊ぶ－秋 収穫を祝う－。 森と経済の関係。 森と社会の関係。 動物を捕獲する－わなを仕掛ける－。 いのちをいただくとは。 自然の中で遊ぶ－雪遊び 寒さの特徴を生かす－。 自然の中で遊ぶ－雪遊び 雪の特徴を生かす－。 冬の道北の自然－スノーシューでもりの中へ－。 冬の道北の自然－またもりへ－ グループワーク－振り返りとまとめ－。

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、自然の草木・野生動物・昆虫について図鑑等で調べる。復習は、体験した内容を実践してみる。関連する文献・資料について調べてみる。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>提出物 (経験した内容の整理 80 点、文献資料などにより後づける 20 点)</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>レイチェル・カーソン、上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』新潮文庫、2021 年。 知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』岩波文庫、2023 年。</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<p>講義時に提示する。</p>

科 目 名	子どもと言葉		
科 目 名 (英 語)	Children and Language	シラバスNo.	260040530
担 当 教 員 名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択
		資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	(1) 子どもの言葉の発達に関する知識を修得する。 (2) 子どもの言葉に関する教育と保育の諸問題を理解する。		
受 講 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる専門的知識を提供する。受講者はその知識をディスカッションやワークショップ等を通して獲得し、「言葉」について既に持っている常識を問い直す。それに基づいて後半は、幼児教育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達にかかわる保育者の役割について理解を深める。		
	アクティブ・ラーニングの内容 子どもの言語発達に関するディスカッション、およびワークショップ等をおこなう。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 子どもの言葉の発達① 音と言葉の比較 5 子どもの言葉の発達② 言葉以前のコミュニケーション 6 子どもの言葉の発達③ 話し言葉と書き言葉の比較 7 想像と言葉① 擬音語とイメージ 8 想像と言葉② ごっこ遊び 9 想像と言葉③ 描画と書き言葉 10 言葉に関わる多様な実践① 幼児教育における文字遊び 11 言葉に関わる多様な実践② 学校における作文 12 言葉に関わる多様な実践③ 精神障害者施設における対話 13 言葉に関わる多様な実践④ 幼児教育における児童文化財の利用 14 言葉に関わる多様な実践⑤ 児童文化財を媒介したごっこ遊び 15 まとめ		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間		
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内容を振り返り、下記の参考書および関連文献を読む。		
成 績 評 価 方 法	授業中のディスカッション等への参加 (40 点)、期末レポート (60 点) により評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	授業時に資料を配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	『幼児期－子どもは世界をどうつかむかー』（岡本夏木著、岩波書店）		

科 目 名	子どもと環境				
科 目 名 (英 語)	Children and Environment	シラバスNo.	260040540		
担 当 教 員 名	菊池 稔				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	①地球環境問題と保育・幼児教育の関係性を説明できる。 ②緑化活動を主体的に展開できる。 ③自然を取り入れた遊びを計画し実施できる。				
受 講 の 留 意 点	講義は、グループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。野外で活動を行う際、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。 本講義は、知識を伝えノートに記録する方法を重視していない。体験を通して知識や技能を覚えることに重きを置くので、主体的に行動しないと時間が無駄になることに注意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、まず地球環境問題と SDGs・ESD の基本的な考え方を学び、子どもが生きる時代の環境的背景を理解します。そのうえで、子どもの発達と環境の関係に関する理論を手がかりに、散歩や自然体験、花育など、幼児期にふさわしい保育内容「環境」の活動や教材を具体的に構想・実践できる力を養うことを目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 Project wild/ネイチャーゲーム等の環境教育活動の体験と企画 プランター栽培 大学近辺の散策活動 グループワーク				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション（講義内容・成績評価等の説明） 幼児期の ESD①：地球環境問題の 背景と構造を理解する 2 幼児期の ESD②：SDGs と解決するアプローチとしての ESD（持続可能な開発の為の教育） 3 幼児期の ESD③：幼児を対象とした環境配慮を促す活動・教材を考える 4 幼児期の ESD④：幼稚園・保育所・こども園での ESD 実践（DVD 視聴） 中間課題①の出題 5 教育・保育における「環境」の諸理論と思想（アフォーダンス理論、エミール等） 6 保育・幼児教育における散歩の意義 7 自然を活用した教材研究①：自然と関わるアプローチを知る 8 自然を活用した教材研究②：活動を計画する 中間課題②の出題 9 自然を活用した教材研究③：活動発表とふりかえり① 10 自然を活用した教材研究④：活動発表とふりかえり② 11 自然を活用した教材研究⑤：活動発表とふりかえり③ 12 花育①：園芸用品の理解とプランター栽培のコツ 13 花育②：子どもが栽培活動に意欲的になる活動を構想する 14 花育③：花を使った工作活動 15 まとめ				
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランターの水やり・草むしり ・配布する資料 ・各講義終了後提示するテーマの活動を考える(後日フィードバックします)
<p>成績評価方法</p>	<p>コメントシート(20%) 中間課題(30%) 期末課題(50%)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>適宜教員の方で印刷し配布する</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>降旗信一・菊池稔編著『持続可能な社会をつくる幼児期のESD論～子どもと環境』,人言洞 適宜教員の方で印刷し配布する</p>

科 目 名	子どもと音楽表現 I		
科 目 名 (英 語)	Music Expression for Children I	シラバスNo.	260040550
担 当 教 員 名	三川 美幸		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	音楽教員としての経験を活かし、子どもの音楽表現を引き出す保育援助技術について実践的な教育を行う。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、身体運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得する。子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動についての環境構成について理解を深める。また、表現活動の計画について立案・展開ができる。		
受 講 の 留 意 点	他者の表現を受容し、協働する姿勢を求める。動きやすい服装で参加する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱、楽器の技法について学ぶ。他者の音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。 アクティブ・ラーニングの内容： ペア・ワーク、グループ・ワーク、演奏会に向けた協働（音楽会の企画・運営・実施）		
授 業 の 計 画	1 音名と階名、音部記号 2 長調と短調、＃と♭など 3 リズム (1) 拍とテンポ 4 リズム (2) 拍子と音符・休符 5 リズム (3) さまざまなリズム 6 音楽と動き (1) リトミック① 7 音楽と動き (2) リトミック② 8 音楽と動き (3) わらべうた① 9 音楽と動き (4) わらべうた② 10 音楽と動き (5) 音楽要素との関連 11 音楽と動き (6) 集団活動と音楽 12 音を聴くこと 13 楽器遊び (1) 幼児に適した楽器 14 楽器遊び (2) ベル 15 楽器遊び (3) 合奏	16 歌唱の基礎 17 子どもの歌と表現 18 子どもと楽しむ音楽会 (1) テーマ設定 19 子どもと楽しむ音楽会 (2) グループ活動 20 子どもと楽しむ音楽会 (3) 役割分担 21 子どもと楽しむ音楽会 (4) 練習と進行 22 子どもと楽しむ音楽会 (5) リハーサル 23 子どもと楽しむ音楽会 (6) 発表会 24 子どもと楽しむ音楽会 (7) 振り返り 25 歌唱の伴奏 26 歌唱と歌詞 27 和音と音階 28 創作：子どものうた 29 子どもと音楽表現 30 まとめ	
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 ワークブックの指定された課題を行い、疑問点を整理する。演習内容を振り返り、理解や技能獲得などが不足している点について確認する。授業内の振り返りについて、リアクションペーパーにまとめ、提出する。事前に指定される子どもの曲の予習・復習を行う。		
成 績 評 価 方 法			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>1)小林美美編、『こどものうた200』、チャイルド本社 2) 小林美美編、『続・こどものうた200』、チャイルド本社 3) 『新版 たのしいドレミファ・ランド』、教育研究社 4)今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための表現技術』, 萌文書林 ※(購入については担当教員から別途指示) 5) 厚生労働省, 2018『平成30年3月 保育所保育指針解説』フレーベル館 6) 文部科学省, 2018『平成30年3月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 7) 内閣府ほか, 2018『平成30年3月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>

科 目 名	子どもと音楽表現Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Music Expression for Children Ⅱ	シラバスNo.	260040560
担 当 教 員 名	三川 美幸		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	音楽教員としての経験を活かし、子どもの音楽表現を引き出す保育援助技術について実践的な教育を行う。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコード奏など、豊かな表現をもって歌唱伴奏ができるピアノの基礎的な技術および音楽知識を修得する。 ・子どもの歌のコード奏、習熟度に合わせた伴奏ができるようになる。 ・連弾を通じた豊かな表現力を身に付ける。 ・豊かな表現力を兼ね備えた独奏ができるようになる。		
受 講 の 留 意 点	グループ単位での担当制による個人レッスンを基本的な授業形態とする。特に、欠席・遅刻等については、担当教員へ事前に連絡を行うこと。ピアノ技術の習得のため、日々の練習を継続的に行うこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの音楽表現をひきだすために保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱、楽器の技法について学ぶ。他者の音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。 アクティブ・ラーニングの内容： ペア・ワーク、グループ・ワーク、演奏会に向けた協働（音楽会の企画・運営・実施）		
授 業 の 計 画	1 コードネームと伴奏 2 右手メロディーと左手和音① 3 右手メロディーと左手和音② 4 右手メロディーと左手和音③ 5 右手メロディーと左手和音④ 6 右手メロディーと左手和音⑤ 7 右手和音と左手ベース音① 8 右手和音と左手ベース音② 9 右手和音と左手ベース音③ 10 右手和音と左手ベース音④ 11 右手和音と左手ベース音⑤ 12 右手和音と左手ベース音⑥ 13 右手和音と左手ベース音⑦ 14 伴奏付け発表会① 15 伴奏付け発表会②、まとめ	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	連弾①個人練習（譜読み・補正） 連弾②個人練習（ダイナミクス、アゴーギグ） 連弾③曲想の確認 連弾④総合表現（バランス、ダイナミクス） 連弾⑤総合表現（アゴーギグ、タイミング） 連弾⑥リハーサル 連弾発表会① 連弾発表会② ソロ曲練習①譜読み ソロ曲練習②曲の分析と理解 ソロ曲練習③ダイナミクス ソロ曲練習④アゴーギグ ソロ曲練習⑤総合表現、暗譜 ソロ曲練習⑥総合表現、リハーサル ソロ曲練習⑦発表、まとめ
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 各自の進度に応じた課題に取り組む（読譜・楽曲の分析・理解など）。レッスン内容を振り返り、留意点を確認する。技術的に難解な箇所について反復練習を行う。進度表を活用し、進度状況を把握し、到達目標に向かう段階を分割して曲の習得を計画的に行う。		
成 績 評 価 方 法	前期に行う伴奏付け発表会（20点）、後期に行う発表会：連弾（20点）、独奏（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による総合評価。		

教科書 (購入必須)	『新版 たのしいドレミファ・ランド』、教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編、『歌唱教材伴奏法』、教育芸術社※購入については担当教員から別途指示。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	保育者の音楽技能（ギター）			シラバスNo.	260040570
科 目 名（英 語）				シラバスNo.	260040570
担 当 教 員 名	松本 敏正				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	<p>個人ギター教室開講 7年。楽曲全国リリース、楽曲提供多数。</p> <p>ギターの基本的な概要、導入から、専門的技術、作詞作曲までの導入。</p> <p>教則本や youtube では得られない技術の共有、保育現場でのギターの活用の仕方など。</p>				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	子どもと音楽表現 I での学修を踏まえ、アコースティックギターを用いて子どもの歌の伴奏ができる技術的能力を修得する。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>アコースティックギターによる基本的な伴奏法を学ぶ。左手でコードをおさえ、右手でストロークやアルペジオなどの奏法を用いて演奏できるようにし、最終的には弾き語りしながら歌うことが出来るように、段階を踏んで演奏技術の向上を目指し、ギターを用いてどのように保育現場に活かすかを学び、実践の入り口とする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ギターを用い、子どもを対象とした、発表の為のグループワーク。</p>				
授業の計画	1	アコースティックギターに必要な基礎知識、チューニングの仕方について	16	前期ストローク曲の総復習	
	2	コードネーム、ダイアグラムの基礎、基礎練習クロマチック練習	17	アルペジオ演奏の基礎	
	3	主要コードの押さえ方（C、G、D）	18	様々なアルペジオのパターン	
	4	主要コードの押さえ方（Bm、Em、Am）、押さえ方の練習	19	アルペジオで伴奏しながら歌唱練習	
	5	コードチェンジのコツ、ストローク練習	20	作詞・作曲の仕方（導入編）	
	6	弦交換の仕方から、実践まで	21	ストローク、アルペジオを組み合わせた弾き方	
	7	主要コードの応用（セブンスコード）	22	ストローク、アルペジオを応用した様々な曲の練習	
	8	セブンスコードを使用した童謡曲	23	アルペジオテストの為の個人練習	
	9	バレーコード（F、Bなどを中心に）	24	アルペジオテスト発表	
	10	主要コードの応用（add9th、sus4）	25	グループ発表のメンバー決め、曲決め	
	11	ミュート、カッティングについて	26	グループ発表練習①	
	12	様々な応用テクニック（ハンマリングオン、プリングオフ、スライド）	27	グループ発表練習②	
	13	ストロークで伴奏しながら歌唱練習	28	グループ発表仕上げ（表現の仕方、弾き方 等）	
	14	コードのボイスイング、上級者やプロが多用するボイスイング	29	グループ発表会（前半）	
	15	ソロ曲発表会	30	グループ発表会（後半）	
授 業 時 間 外 学 修 （予 習 ・ 復 習）の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>				

成績評価方法	前期に行う伴奏付けソロ発表会（20点）、後期に行うグループ発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	『知識ゼロからのアコースティック・ギター入門（ゴンチチ）』幻冬舎

科 目 名	子どもと造形表現 I			
科 目 名 (英 語)	Formative expression for Children I	シラバス No.	260040580	
担 当 教 員 名	堀川 真			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感して楽しむことができる。			
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの感性を高めることを目的として、造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作 2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ) 3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー) 4 工作 (1) お面、かぶりもの 5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装 6 工作 (3) ストロー人形 7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ 8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット 9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ 10 工作 (7) 紙版画、ステンシル 11 工作 (8) とびだすカード 12 工作 (9) 折紙 13 工作 (10) 音を出してみる 14 工作 (11) 壁面構成 15 まとめ 			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 予習：ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。			
成 績 評 価 方 法	授業内容を理解した作品の制作と提出(70%)及び発表(30%)により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	『3・4・5 歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)			

科 目 名	子どもと造形表現Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Formative expression for ChildrenⅡ	シラバス No.	260040590	
担 当 教 員 名	堀川 真			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、子育て支援センターや知的障害者更生施設において実践した造形あそびを基に、子どもの発想や巧緻性の発展に有効と考える技能・知見について指導する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	「子どもと造形表現Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を高めることを目的として、「子どもと造形表現Ⅰ」での学修を基礎とし、子どものための一般的な造形技法のみならず、より高度な制作活動を行う。 ・子どもに向き合うことを想定した制作指導のあり方を検討するとともに、保育士としての表現力の向上をめざす。 			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>本時の課題のねらいを理解して演習を行い、多様な子どもへの支援を想定してグループ内で意見と技術を交換し、発表し学びあう</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 木工（1）制作 3 木工（2）塗装 4 仮装（1）構想と制作 5 仮装（2）制作と発表会 6 紙版画（1）カレンダー制作・製版 7 紙版画（2）カレンダー制作・印刷 8 造形あそび（1）石に絵を描く 9 絵本づくり（1）構想 10 絵本づくり（2）下絵～彩色 11 絵本づくり（3）彩色～仕上げ 12 絵本づくり（4）製本の技法 13 絵本づくり（5）糊付け 14 絵本づくり（6）製本 15 まとめ 			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>予習：ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。</p>			
成 績 評 価 方 法	授業内容を理解した作品の制作と提出(70%)及び発表(30%)により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	『幼児の造形表現』（渡辺一洋 ななみ書房）、「子どもとアート」（磯部錦司 小学館）			

科 目 名	子どもと健康				
科 目 名 (英 語)	Children's Health	シラバスNo.	260040600		
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	子どもの健康課題と健康の発達の意味について説明できる。子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達について知識・技術を修得する。				
受 講 の 留 意 点	動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。 授業で紹介した文献等については、授業後に参照しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもの健康について、発達を支える重要な要素であることを歴史的社会的文脈の中で捉える。運動発達と健康課題の関係を、個人・集団・社会の中における矛盾の層として捉え、矛盾を乗り越える契機を具体的に検討し、そこでの保育者の役割を明らかにし、子どもの発達の原動力とは何かを明らかにする。同時にそれは生活全般の中で起こることから、生活の自立、生活習慣の形成、安全、疾病予防などについても上記の視点から言及することになる				
	アクティブ・ラーニングの内容 遊びの企画・運営・振り返りをグループで話し合いながら実践する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 子どもの健康課題の現状。 2 健康の歴史 実態と概念 「発達」の概念史。 3 幼児教育要領と保育所保育指針における健康の位置づけ。 4 健康問題を捉える3つの系 個人・集団・社会。 5 乳児期の心身の発達と健康の実際 対象との関わり（モノ・ヒト・コト）。 6 幼児期の心身の発達と健康の実際 対象との関わり（モノ・ヒト・コト）。 7 乳幼児期の健康の意義と定義について考える。 8 乳幼児期の発達の特徴と環境との関わり 対象への働きかけによる身体と環境の変化。 9 乳幼児期の基礎的な生活習慣の形成 運動、食事、睡眠。 10 身体づくりと食育の一体的な実践 事例紹介・検討。 11 乳幼児期における多様な動きの獲得① 運動あそび。 12 乳幼児期における多様な動きの獲得② 外あそび。 13 乳幼児期における多様な動きの獲得③ 道具を使ったあそび。 14 乳幼児期における多様な動きの獲得④ ルールのあるあそび。 15 子どもの安全教育・疾病予防対策の歴史・現状・課題。 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業で提示した文献資料の講読。復習は、あそびに関連する文献の検索と講読。				
成 績 評 価 方 法	提出物 100点により評価する。資料内容の理解 80 点。関連文献資料の探索と要点整理・考察 20 点。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				

参 考 書 (購 入 任 意)	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年。田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年。北村晋一『乳幼児の運動発達と支援』群青社、2013年。浜田寿美男訳編『ワロン/身体・自我・社会』ミネルヴァ書房、1983年。汲田克夫『近代保険思想史序説』医療図書出版社、1974年。
----------------------	--

科 目 名	子どもと人間関係				
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260040610		
担 当 教 員 名	滝澤 真毅				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選 択 幼稚園：選 択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について歴史・実証的な視点をもとに理解し説明できるようになる。 ・ 保育を通じた人間関係の発達について関係論の視点から理解し、援助方法を考察できるようになる。 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	領域「人間関係」の指導の基盤となる、子ども同士、また子どもと大人の社会的な関わりについて、子育て・保育の歴史、心理学における実証研究の知見、そして保育実践事例の分析をもとに総合的に理解する。				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>映像資料や実践記録を豊富に用いるほか、ディスカッションを通して意見を交わすことで、自身が人と関わる際の視点について見つめ直しつつ、子どもの人間関係を育むための、専門的支援者としての基礎を培っていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション-子どもの人間関係を育てるとはということか- 2 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷(1)-自身の子も時代から考える- 3 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷(2)-少子化以前の家族・地域・子ども- 4 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷(3)-平成から現代までの課題を理解する- 5 大学生の人間関係から子どもをみつめる-育てたい資質を主体的に考察する- 6 0歳児の人間関係の発達と援助-自立心の育ちの支援と遊びを中心に- 7 1歳児の人間関係の発達と援助-自立心の育ちの支援と遊びを中心に- 8 2歳児の人間関係の発達と援助-道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心に- 9 3歳児の人間関係の発達と援助-道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心に- 10 4歳児の人間関係の発達と援助-5歳児の協同性へ向けた萌芽を育む- 11 5歳児の人間関係の発達と援助-協同性の育ちをつかみ支援する- 12 保育実践記録の分析(1)-保育者と子どものかかわりを通して関係を育てる- 13 保育実践記録の分析(2)-子ども同士の関わりを通して関係を育てる- 14 保育実践記録の分析(3)-インクルーシブな関係を実現していくための援助をつかむ- 15 まとめ-人間関係から一人ひとりの人生を豊かにするために- 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習 (25 分) 授業前に次回講義に関わるキーワードや子どもの具体的事例について調べておくこと。</p> <p>復習 (20 分) 授業内で学んだ内容や追加資料等に再度目を通すなどして理解や学びを定着させること。</p>				
成 績 評 価 方 法	毎回のショートレポート 20%、期末レポート 80%				
教 科 書	指定しない。				

(購 入 必 須)	
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>無藤 隆・古賀松香(編)(2016) 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは 北大路書房</p> <p>神田英雄 (2013) 0 歳から 3 歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 乳児編 ちいさいなかま社</p> <p>神田英雄(2013) 3 歳から 6 歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 幼児編 ちいさいなかま社</p>

科 目 名	児童文化			
科 目 名 (英 語)	Children's Culture	シラバスNo.	260040620	
担 当 教 員 名	堀川 真			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件 幼稚園：選 択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目。			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：○			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童文化に関する知識と実際を知り、日本の子ども文化の特性を理解する。 ・児童文化が保育分野に果たす役割を考えつつ、その特性や実践上の留意点について理解するとともに、地域と協働する文化活動に資する力を持つ。 			
受 講 の 留 意 点	科目の性格上、講義科目であるが演習的要素を含むので、実技の予習復習も行き、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>子ども理解につなげるために、伝承あそびからおもちゃ・絵本・紙芝居等まで、児童文化にかかるものを紹介し、それが果たす役割について理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 本時の課題のねらいを理解し、高齢者等も含む地域との連携、地域との協働を想定する意見交換を行い、発表し学びあう。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び 3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実践 4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、すぐろくの歴史 5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介、かるたの歴史 6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様 7 紙芝居について 発達史と上演の留意点 8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇 9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力 10 絵本小史 絵本の歴史と 20 世紀初頭海外の展開 11 絵本小史 絵本の歴史と日本の戦後の展開 12 絵本創作の背景 実作を通してみる制作課程と配慮 13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫 14 メディアについて 児童向けコンテンツに見る社会との同期性について 15 まとめ 			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>予習：ICT を活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。</p>			
成 績 評 価 方 法	ミニレポート(40%)及び期末レポート(60%)により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度、プリントを配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	『児童文化』(皆川美恵子、武田京子 ななみ書房)			

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
科目名（英語）	Understanding and Supporting Special Educational Needs	シラバスNo.	260040630		
担当教員名	郡司 竜平				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
各学科の対応するディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題を理解する。 				
受講の留意点	演習科目であり、積極的な発言を求める。				
授業の概要とアクティブ・ラーニングの内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。 				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 実際の保育場面における子どもへの支援についてシミュレーションを行う。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上げることで全体で共有しながら学びを深める。 体験的な学習の機会を毎時間設定し、気づきを学修者同士で共有できる環境設定としている。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害等の理解と援助①（障害とは何か） 2 障害等の理解と援助②（特別な教育的ニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（グループワーク：社会的障壁の実際） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育所・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（グループワーク：絵本の読み聞かせ場面での支援） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育の可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題） 				

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 演習後、演習内で提示された資料や討論、グループワークの内容について整理を行うこと 整理した内容に基づき、次時の学修内容について該当箇所の予習を行うこと</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>講義におけるリアクションペーパー (30 %)、レポート (70 %) により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019 梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年</p>

科 目 名	障がい児福祉				
科 目 名 (英 語)	Welfare for children with special needs	シラバスNo.	260040640		
担 当 教 員 名	大友 愛美				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	主に知的障害と自閉スペクトラム症（ASD）の特性がある人の直接支援、家族支援、事業所で働く支援員からの支援方法の相談に応じる活動を行っている教員が、現場で有効な支援方法を具体的に伝える。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	障害を社会モデルで捉えることができるようになる。 発達障がいや正しく理解することで、合理的配慮の具体的な方法をイメージできるようになる。 発達支援の現場に出るための心構えとして最低限の障害特性に関する知識を身につける。				
受 講 の 留 意 点	現場で実践をすることを前提とした授業となるため、現場での支援に対して積極的に興味をもち、情報収集を行うこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	障がいの考え方を学んだうえで、実践現場で行われている具体的な支援方法を体験する。映像教材を使いながら、支援方法を「知る」「やってみる」を中心に学ぶ ・自閉症体験のワークショップ ・課題分析を使ったアセスメント方法 ・構造化のアイデアを使った支援方法 ・ABC機能分析を活用した行動支援 家族支援や地域支援の役割を学ぶ				
	アクティブ・ラーニングの内容 ワークシート類を使った個人ワークや支援方法を話し合うグループワークを通して実践のイメージを作る。またリアクションペーパーの作成により、内容をふりかえり理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害を社会モデルで捉える 2 行動から障害をアセスメントする（発達障害とは） 3 ASDの世界を体験する（疑似体験） 4 MTSS（多層的な支援システム）について学ぶ 5 「気になる子」への支援の基本①（特性理解） 6 「気になる子」への支援の基本②（構造化） 7 ASDの障害特性アセスメント（課題分析） 8 ASDの障害特性に基づいた支援（構造化と再構造化） 9 1次的な支援「全体への集団支援」① 10 1次的な支援「全体への集団支援」② 11 2次的な支援「クラスの中での特別支援」① 12 2次的な支援「クラスの中での特別支援」② 13 ABC機能分析を活用した行動支援 14 3次的な支援「個人への特別な支援」 15 まとめ園全体での共通認識と家族支援（グループワーク） 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・指定した教科書を事前に読んでおくこと ・配布資料をもとに内容をふりかえり疑問点を整理しておくこと ・レポート課題作成の準備として必要な実践例などを調べてまとめること				
成 績 評 価 方 法	授業の終わりに毎回提出するリアクションペーパーとレポート課題により評価する。 レポート課題 90% 毎回のリアクションペーパー10%				

教科書 (購入必須)	多層的なかかわりで子どもたちが落ち着く・まとまる 保育者のための気になる子が複数いるクラスの整え方 柳田めぐみ 中央法規 2023
参考書 (購入任意)	場面別取り組み方の優先順位がわかる 保育者のための気になる子が複数いるクラスへのかかわり方 柳田めぐみ 中央法規 2025

科 目 名	障害児支援の基礎理論				
科 目 名 (英 語)	Introduction to Special Needs Education	シラバスNo.	260040650		
担 当 教 員 名	森田 隆行				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、特別支援教育の理念、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて指導するとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを指導する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育制度の成立と障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開を理解している。 特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割を理解している。 障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、特別支援教育制度の成立と展開を理解している。 現代社会における特別支援学校における教育課題を歴史や障害者施策の視点から理解している。 障害のある幼児、児童又は生徒に関わる教育の思想を理解している。 特別支援学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 特別支援学校を巡る近年の様々な状況の変化及び子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 近年の特別支援教育政策の動向を理解している。 特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係を理解している。 特別支援学校教育要領・学習指導要領の性格及びそこに規定する自立活動や知的障害者である幼児、児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取扱いの基礎的な考え方を理解している。 特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営の基本的な考え方を理解している。 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。 				
受 講 の 留 意 点	特別支援教育に関する基礎的・基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>特別支援教育の理念とは何か、また、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践事例に対する批判的検討を中心としたディスカッション 障害に由来する困難の擬似的体験に基づいた目標達成のためのグループ協議とシェアリング 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育制度の成立とインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開 特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割 特別支援教育制度の成立と展開 現代社会における特別支援学校における教育課題 障害のある幼児、児童又は生徒に関わる教育の思想 特別支援学校や学習に関わる教育の思想 特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び指導上の課題 近年の特別支援教育政策の動向 特別支援学校の目的及び教育目標と教育課程の基準 特別支援学校教育要領・学習指導要領 				

	<p>11 自立活動と知的障害特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の基礎</p> <p>12 特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営</p> <p>13 幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営</p> <p>14 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働</p> <p>15 インクルーシブ教育システムと共生社会</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学修する用語を予め調べ、その概念を文字に整理する。(予習) ・授業で使用した資料、授業で活動した内容をノートに整理し、学修内容の定着を図る。(復習)
成績評価方法	毎回のリアクションペーパー (30 点)、レポート (70 点) により評価する。
教科書 (購入必須)	<p>特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部)</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部)</p> <p>特別支援学校高等部学習指導要領</p>
参考書 (購入任意)	随時に紹介する。

科 目 名	知的障害者の心理・生理・病理			
科 目 名 (英 語)	Psychology, Physiology and Pathology of Intellectual Disabilities	シラバスNo.	260040660	
担 当 教 員 名	奥村 香澄			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、仮想事例の検討			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習 2 知的障害の定義 障害の認定と教育 3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生机序、学習や行動の特徴 4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価 5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因 6 脳機能の発達 定型発達児の発達 7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学 8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力 9 脳機能障害児の運動特性 操作、微細運動、粗大運動 10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症 11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習 12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、適応行動の取得 13 代表的な知的障害 (ダウン症候群、自閉スペクトラム症) 14 知的障害児のアセスメント 15 家庭、学校、地域、医療との連携 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業終了後に、forms にて授業の理解度等についての振り返りを行います。			
成 績 評 価 方 法	中間レポート (50%)、最終レポート (50%) 等で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし			
参 考 書 (購 入 任 意)	授業内で資料を適宜配付する。			

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
科 目 名 (英 語)	Psychology, Physiology, and Pathology of Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	260040670		
担 当 教 員 名	高橋 和明、田中 肇				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭の実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由(運動障害)の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴を理解し、配慮や留意すべき内容等について説明できる。 ・人間の身体の仕組み、定型発達(運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等)を理解し、肢体不自由(運動障害)がある場合の障害特性が説明できる。 ・肢体不自由(運動障害)の子どもがいる家族の支援や医療機関との連携の大切さについて理解し、説明できる。 				
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。医療分野の内容も含まれますが、肢体不自由教育に携わる上で必要な基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>人間の身体の仕組み、乳幼児の定型発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援、関係機関の連携等について学習します。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う</p>				
授 業 の 計 画	<p>オリエンテーション / 肢体不自由の定義・原因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます / 「肢体不自由」という用語の成立と「肢体不自由」の原因についてについて学習します 2 姿勢と運動に関する身体の仕組み ①骨や関節の働き、②筋肉の種類と特徴、③神経系の構造と働き、④骨格及び筋肉、神経系と肢体不自由の関係等、人間の身体の基本的な仕組みについて学習します 3 姿勢と運動発達 発達の捉え方や乳幼児の運動発達の特徴について理解を図るとともに、肢体不自由の障害特性を理解するための反射と姿勢の発達について学習します 4 脳性まひの原因と病型 脳性まひの原因や病型による脳性まひの分類(痙直型・不随意運動(アテトーゼ)型・失調型・混合型)、各分類別の特徴など、脳性まひ児の障害特性について学習します。 5 脳性まひ児の運動発達の特徴 臥位姿勢から体をタテに起こして歩行を獲得するまで、乳幼児の運動発達の全体像を学びながら、脳性まひの運動発達の特徴について理解を図ります。 6 重度脳性まひ児の障害の理解 重度脳性まひ児の障害状況について学び、学校教育における発達を促す姿勢づくり(ポジショニング)の重要性や重度脳性まひ児の指導・支援のポイントについて理解を図ります。 7 肢体不自由児の心理特性 知的発達(知能)やパーソナリティ、経験・体験不足の影響、養育態度の影響等から、非脳損傷性と脳損傷性の肢体不自由児に分けて、その心理面の特性について学習します。 8 脳性まひ児の知覚・認知特性 子どもの発達における感覚・知覚・認知の発達と運動発達との関連について理解を図り、肢体不自由が認知発達に及ぼす影響や脳性まひ児にみられる認知の障害、認知面に種々の困難がある児童生徒への支援内容等について学びます。 9 肢体不自由児の社会性の発達の特性 				

	<p>円滑な対人関係や集団の中で適切に行動できる力を社会性とおさえ、乳幼児期の社会性の発達を概観しながら肢体不自由児の社会性の発達を考えるときの問題を明らかにし、肢体不自由児の社会性の発達の阻害要因や肢体不自由児の社会性の発達特性を踏まえた支援の在り方等について学びます。</p> <p>10 二分脊椎と筋ジストロフィーの理解と支援 二分脊椎と筋ジストロフィーの病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>11 肢体不自由児の摂食障害の理解 食べる機能(摂食嚥下)の仕組みとその発達の過程を概観し、重度脳性まひ児の食事時にみられる摂食嚥下障害と学校における摂食指導の教育課程上の位置づけと指導の実際を学びます。</p> <p>12 手足の先天奇形・関節拘縮症、ペルテス病・骨系統疾患の理解と支援 手足の先天奇形・関節拘縮症及びペルテス病・骨系統疾患の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>13 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解と支援 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>14 学校における医療的ケアの基本的な考え方と具体的な対応 特別支援学校(肢体不自由教育)では医療的ケアを実施している児童生徒が多数在籍していることから、本講では学校で医療的ケアが実施されるようになった経緯や学校における医療的ケアの実際、医療的ケアの教育的意義等について学習します。</p> <p>15 肢体不自由児の発達検査 肢体不自由児の実態把握の方法として用いられる行動観察や保護者面談、心理検査を実施する際の留意点について学ぶとともに、実際に肢体不自由のある児童生徒にも適用できる簡便な発達検査を取り上げ、検査結果の処理や活用の仕方について演習をします。</p>
授業時間外学修(予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：参考文献や学習指導要領等で、シラバスで予定されている授業内容を確認しておくとともに、関心を持った話題については各種文献やネットで調べておくこと。 復習：配付資料や学習指導要領、講義中に出题した課題、講義メモなどから授業内容を振り返り、ノートを整理することや授業で取り上げられたキーセンテンスやキーワードについて参考文献やネットで調べて理解を深めること。</p>
成績評価方法	提示課題の取組状況(30点)、振り返りレポート(30点)、課題レポート(40点)として総合的に評価します。
教科書(購入必須)	「肢体不自由児の医療・療育・教育」(篠田達明 監修、沖高司・岡川敏郎・土橋圭子 編集、金芳堂)
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児の教育〔新訂〕(川間健之助 長沼俊夫 著, NHK 出版) ・「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ IV肢体不自由 PP143～171」 R3.10 文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00004.htm ・社会福祉法人 日本肢体不自由児協会ホームページ https://www.nishikyo.or.jp/ 「肢体不自由児の父 療育の父 高木憲次」(動画 30:00) ・「よくわかる肢体不自由教育」 安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 ・「肢体不自由教育の理念と実践」 筑波大学付属桐ヶ丘特別支援学校 ジアース教育新社 ・「障害児の発達とポジショニング指導」(高橋純・藤田和弘編集 ぶどう社) ・「新版 重症心身障害療育マニュアル」 江草安彦監修, 医歯薬出版株式会社

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理			
科 目 名 (英 語)	Psychology, physiology, and pathology of people with illness	シラバスNo.	260040680	
担 当 教 員 名	下村 遼太郎・高橋 和明			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子どもへの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。 ・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。 ・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。 			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。病弱・身体虚弱教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもへの支援で大切にすべきことについて考えていきます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行うとともに、病弱・身体虚弱の児童生徒への支援をテーマに、KJ法を取り入れてグループディスカッション・グループワークを行う授業を設定している。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション /健康、病気、子どもが病気になったとき (高橋担当) 授業の進め方、授業内容、評価方法等についてガイダンスをします。/「病気」「健康」の概念や子どもの病気理解の発達について学び、その発達段階を踏まえた慢性疾患の子どもの支援について考えます。 2 病気、障害のある子どもへの合理的配慮 (高橋担当) 「国際障害分類 (ICIDH)」から「国際機能分類 (ICF)」へ、「障害」の捉え方や考え方の変遷について理解を図り、病弱・身体虚弱の子どもへの「合理的配慮」とICFを用いた子どもの支援について学習します。 3 病気が及ぼす心的な影響Ⅰ～慢性疾患による心理的影響 (高橋担当) 病気の子ども「心に寄り添う」ということと、病気(慢性疾患)が及ぼす心理的影響について考え、病気の子どもへの気持ちの理解や心のケア、プライバシーの保護など慢性疾患の子どもに対する支援のポイントを学習します。 4 病気が及ぼす心的な影響Ⅱ～病気・障害の受容とセルフケア (高橋担当) 「病気」、「障害」の受容がセルフケアの大前提であり、その上で発達段階に即してセルフケアの諸能力が獲得されていくことを学び、セルフケアの力を育む自立活動の指導や慢性疾患の子どもにセルフケアの力を育む支援について学習します。 5 家庭・医療・教育の連携～家族への支援、医療と教育の連携～ (高橋担当) 重大な病気や障害があると診断された親の心理、保護者と関わる際の心構えや態度、関係づくり、保護者を支援する際の配慮点について学ぶとともに、医療と教育の連携のポイント、病気療養児の学びを保障するための迅速な手続きと学校間の連携について学習します。 6 病弱者の支援で大切なこと (1) ～グループワーク (高橋担当) グループディスカッション・グループワークを通して、病気療養児の教育と支援で大切にしていきたいことを考えます。 7 病弱者の支援で大切なこと (2) ～グループワークの成果発表/まとめ (高橋担当) グループワークの成果を発表し合い、グループワークのまとめをするとともに、病院に入院している子どもたちの動画を視聴し、病気療養児の支援の在り方を考えます。 			

	<p>8 病気、障害のある子どもの心理的特徴と心理的支援・配慮の在り方（高橋担当） 病気や障害のある子どもの心理的特徴と病気が及ぼす様々な不安・ストレスについて整理し、病気や前籍校、学習に関する不安への対応や「心の病気」への対応等、病気の子どもの指導に当たって大切なことを学びます。</p> <p>9 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等）（下村担当） 小児期のぜんそく・アレルギー等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>10 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等）（下村担当） 小児期の腎臓病、心臓病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>11 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等）（下村担当） 小児期の糖尿病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>12 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等）（下村担当） 小児の悪性腫瘍の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>13 進行性筋ジストロフィー（下村担当） 小児期の筋ジストロフィー患者の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>14 てんかん、血友病、その他の疾患（下村担当） 小児期のてんかん、血友病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>15 心身症・精神疾患（下村担当） 小児期の心身症、精神疾患の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：シラバスを参考に病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図ってください。 復習：授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組んでください。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図ってください。
成 績 評 価 方 法	下村授業担当分 50 点(定期試験)、高橋担当授業分 50 点(小課題とグループワークによる演習課題 18 点 課題レポート 32 点)として、2 名の教員の総合点(満点は 100 点)によって評価します。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理」（小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一 編著、ミネルヴァ書房） ・「病気がみえる vol.15 小児科」（医療情報科学研究所 編、メディックメディア） ・「イラストを見せながら説明する 子どもの病気とその診かた」（金子堅一郎 編、南山堂） ・「特別支援教育免許シリーズ 健康面への困難への対応」（花熊 暁・苅田知則・笠井新一郎監修 健皇社） ・「チームで育む病気の子ども 改訂版 新しい病弱教育の理論と実践」（西牧謙吾・松浦俊弥、北樹出版） ・「標準 病弱児の教育」（テキスト、日本療育学会、ジアース教育新書） ・「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」（宮本信也・土橋圭子、金芳堂） ・「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省 ジアース教育新社) <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p>

科 目 名	知的障害者教育課程論			
科 目 名 (英 語)	Introduction of Curriculum for children with Intellectual Disabilities	シラバスNo.	260040690	
担 当 教 員 名	郡司 竜平			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や 仕組みを体系的に指導する科目 オフィスアワー：事前メールにて随時対応 研究室：3号館南 3300 連絡先：gunji アット nayoro.ac.jp（アットは@へ変換）			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、特別支援教育の今後の展望 を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の 計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編 成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解し、説明することができる。			
受 講 の 留 意 点	ディスカッションを行うため、積極的に参加すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活 動を計画し、実践する際によりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 実際の指導場面における児童生徒への指導・支援についてシミュレーションを行う。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上 げることによって全体で共有しながら学びを深める。 体験的な学習の機会を設定し、気づきを学修者同士で共有できる環境設定としている。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション）認知、学習、生活、自立 2 知的障害児教育の概要（1）特別支援学校の教育の実際 3 知的障害児教育の概要（2）特別支援学級の教育の実際 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題「生きる力」を中心に 5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室） 6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 8 教育課程の開発と編成 個別的教育支援計画、個別の指導計画 9 各教科の指導 10 領域の指導 自立活動 11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習の時間 12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 13 ティームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編成 15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 シラバスに基づき関係個所について自ら調べ整理し、基礎的事項を理解しておくこと。 講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			

成績評価方法	講義におけるリアクションペーパー（30 %）、レポート（70 %）により評価する。
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	<p>橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説（総則等編）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）</p>

科 目 名	知的障害者教育方法論			
科 目 名 (英 語)	Methodology in Education for Person with Intellectual Disabilities	シラバスNo.	260040700	
担 当 教 員 名	郡司 竜平			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や 仕組みを体系的に指導する科目 オフィスアワー：事前メールにて随時対応 研究室：3号館南 3300 連絡先：gunji アット nayoro.ac.jp（アットは@へ変換）			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導 方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な 指導について理解を深める。			
受 講 の 留 意 点	ディスカッションを行うため、積極的に参加すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法 論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の 仕組みや授業や教材の工夫について学修する。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 実際の指導場面における児童生徒への指導・支援について体験しながら学修する。 オンラインシステムを用いて、講義中の気づきを受講者がリアルタイムで発信し、講義内で取り上 げることによって全体で共有しながら学びを深める。 学修における気づきを学修者同士で共有できる環境設定としている。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害のある子どもの理解と教育 2 行動観察とアセスメント 3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について① 4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について② 5 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について③ 6 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論、行動の形成と強化 7 応用行動分析学に基づく支援（2）課題分析と連鎖化 8 自立活動と個別の指導計画（1） 9 自立活動と個別の指導計画（2） 10 授業の工夫と改善（1）各教科の指導 11 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導 12 知的障害教育における ICT の活用について 13 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ 14 ダウン症のある人の事例で学ぶ 15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 毎講義終了時に次時のレディネスチェックを行い、次時の学修内容に関する自らのレディネスを把 握する。把握して内容に基づき基づき関係箇所について自ら調べ整理し、基礎的事項を理解してお くこと。 講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			
成 績 評 価 方 法	講義におけるリアクションペーパー（30 %）、レポート（70 %）により評価する。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT 活用新しいはじめの一步』学事出版 2019</p>

科 目 名	肢体不自由者教育課程論			
科 目 名 (英 語)	Curriculum Theory of Education for Children with Physical Disabilities	シラバスNo.	260040710	
担 当 教 員 名	森田 隆行			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を指導するとともに、カリキュラム・マネジメントについて指導する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力として知・徳・体に加え、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。 2 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進捗を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。 3 各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。 4 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを理解している。 5 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。 			
受 講 の 留 意 点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ・事例をもとにしたディスカッション</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校教育要領・学習指導要領 2 特別支援学校（肢体不自由）で育む「生きる力」と教育課程 3 肢体不自由の状態や特性、心身の発達段階、学習進度のアセスメント 4 就学前の療育・保育・教育とキャリア教育 5 アセスメントを踏まえた教育課程の編成（教育内容、組織、授業時数） 6 各教科の年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成 7 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱い 8 カリキュラムマネジメント（個別の指導計画の実施状況と教育課程の評価・改善） 9 教育課程の実際（1） 小中学校・高等学校の各学年に準ずる教育課程 10 教育課程の実際（2） 目標・内容を前各学年に替えて学習する教育課程 11 教育課程の実際（3） 知的特別支援学校の各教科の目標・内容に替えて学習する教育課程 12 教育課程の実際（4） 自立活動を主として学習する教育課程 重度重複障害 13 肢体不自由教育の実際（1） 授業の実際 14 肢体不自由教育の実際（2） 医療的ケアと学校看護師、訪問教育 15 肢体不自由教育の今後の課題 教師の専門性 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学修する用語を予め調べ、その概念を文字に整理する。（予習） ・授業で使用した資料、授業で活動した内容をノートに整理し、学修内容の定着を図る。（復習） 			

成績評価方法	毎回のリアクションペーパー（30点）、レポート（70点）により評価する。
教科書 （購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部） 特別支援学校高等部学習指導要領
参考書 （購入任意）	随時に紹介する。

科 目 名	肢体不自由者教育方法論			
科 目 名 (英 語)	Educational Methods for Children with Physical Disabilities		シラバスNo.	260040720
担 当 教 員 名	森田 隆行			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭・教頭・校長及び教育委員指導主事として幼児児童生徒の特別支援教育に関する実務経験を有する教員が、肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について講義し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法について指導する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<p>1 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、思考力、判断力、表現力等の育成に必要な体験的な活動を通して基礎的な概念の形成を的確に図ることについて理解している。</p> <p>2 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等を効果的に学習するために必要な姿勢や認知の特性に応じて指導を工夫することについて理解している。</p> <p>3 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導の効果を高めるために必要となる身体の動きや意思の表出の状態に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫することや、ICT及び教材・教具を活用することについて理解している。</p> <p>4 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。</p>			
受 講 の 留 意 点	肢体不自由児に対する適切な指導及び必要な支援に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の個別具体事例を想定した補助具や補助手段の作成、ICTと教材教具の実際の活用 ・肢体不自由による困難の擬似的体験に基づく目標達成のための指導案作成と模擬授業、協議 			
授 業 の 計 画	<p>1 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階</p> <p>2 思考力、判断力、表現力等の育成に必要な体験的な活動と基礎的な概念の形成</p> <p>3 効果的に学習するために必要な姿勢や認知の特性に応じた指導</p> <p>4 身体の動きや意思の表出の状態に応じた補助具や補助的手段の工夫</p> <p>5 身体の動きや意思の表出の状態に応じたICT及び教材・教具の活用</p> <p>6 各教科等の指導と自立活動及び自立活動の指導との関連</p> <p>7 各教科等の指導の実際（1） 小学校、中学校、高等学校の教育課程に準ずる教育</p> <p>8 各教科等の指導の実際（2） 一人一人の障害の状態等を考慮した弾力的な教育課程</p> <p>9 各教科等を合わせた指導（1） 日常生活の指導、遊びの指導</p> <p>10 各教科等を合わせた指導（2） 生活単元学習、作業学習</p> <p>11 授業設計（1） 学習指導案の作成方法</p> <p>12 授業設計（2） 学習指導案の作成と修正</p> <p>13 授業の評価・改善（1） 模擬授業</p> <p>14 授業の評価・改善（2） 授業の相互検討</p> <p>15 肢体不自由教育のまとめ</p>			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学修する用語を予め調べ、その概念を文字に整理する。(予習) ・授業で使用した資料、授業で活動した内容をノートに整理し、学修内容の定着を図る。(復習)
<p>成績評価方法</p>	<p>毎回のリアクションペーパー (30 点)、レポート (70 点) により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部) 特別支援学校高等部学習指導要領</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>随時に紹介する。</p>

科 目 名	病弱者教育論			
科 目 名 (英 語)	Education for Children with Health Impairments	シラバスNo.	260040730	
担 当 教 員 名	高橋 和明			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道内の特別支援学校や教育行政機関で 37 年間肢体不自由教育及び病弱教育に携わってきた経験を生かし、インクルーシブ教育システム下における病弱教育に必要な基礎的・基本的事項を身に付けることを目的に、具体的な事例等を取り上げて、多様なニーズを有する病弱・身体虚弱の児童生徒の理解と授業づくりのための指導内容・方法・評価について解説する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	病弱教育の歴史と意義について理解し、病弱教育の特徴について学校教育の制度や教育課程を中心に概要を把握し説明できる。 病弱・身体虚弱児の教育的ニーズを理解するとともに、病気等の状態等に応じた教育内容・方法に関する基本的事項や配慮事項、自立活動の指導との関連を理解し、病弱教育に求められる専門性について自分なりの考えをまとめ説明することができる。			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。			
の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義と現代的課題を考えるとともに、病弱・身体虚弱児の教育的ニーズや学びの場、教育課程の特徴を理解する。また、病弱教育の対象である主な疾患の特徴を知り、病類に応じた教育の在り方や配慮事項、自立活動との関連について理解し、特別支援学校(病弱)の教員としての自覚や意欲を養う。さらに、実際の事例等に基づいて病気療養児の心理や支援方法、家庭や医療機関との連携について学び、病弱教育における専門性を考える。 病弱教育における基礎的・基本的事項や留意事項について、写真や図解、実践例、動画を取り入れた PowerPoint 教材を使用するとともに、受講生の主体的な学びを促し、学修したことの振り返りと定着を図るためワークシート形式の講義資料を取り入れて授業を展開する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 病弱・身体虚弱の児童生徒への支援をテーマに種々の事例を取り入れ、特別支援学校(病弱)の教員としての自覚や態度について考え、意見交換する授業を設定している。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 授業の進め方、病弱教育の意義と目的 授業の目標や授業計画、授業の進め方等についてガイダンスします。 病気の捉え方、概念について整理し理解を図るとともに、病弱教育の意義と目的を考えます。 2 病弱教育の歴史の変遷と現状 歴史的視点から見た病弱教育を概観するとともに、統計データを通して病気の子どもの現状について理解を図ります。 3 病弱・身体虚弱の子どもの関係法令と学びの場、教育課程の整備 特別支援教育に関する法令と病弱教育の学びの場（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級）や教育課程について学び、法令に基づいて病気の種類や教育条件によって多様な学びの場があること、通常の学級に就学している児童生徒に対する合理的配慮について理解を図ります。 4 病弱・身体虚弱の子どもの教育目標と教育課程 特別支援学校の教育課程を編成・実施する上で必要な法令・法規、学習指導要領の概要について学び、児童生徒の障害や病気の状態に応じた教育課程の取り扱いについて理解を図ります。 5 病弱教育における自立活動の指導 自立活動は教育課程における障害に対応した指導領域であり、特別支援教育と通常の教育の特徴の違いを代表する最も重要な専門性であることを学び、病弱教育における自立活動の具体的な指導課題（目標・内容）や個別の指導計画作成の仕方等について理解を図ります。 6 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、アレルギー疾患 呼吸器疾患、アレルギー疾患の概要を学び、呼吸器疾患、アレルギー疾患の子どもの指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。 7 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 糖尿病、肥満症 糖尿病と肥満症の概要を学び、糖尿病の子ども、肥満症の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。 			

	<p>8 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 腎疾患、心疾患 腎疾患、心疾患の概要を学び、腎疾患、心疾患の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>9 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 神経・筋疾患 進行性筋ジストロフィーなど神経・筋疾患の概要を学び、神経・筋疾患の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>10 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(5) 重症心身障害・てんかん 重症心身障害の子どもの障害の特性を学び、指導上の留意点や健康観察・健康管理のポイントについて理解を図るとともに、合併症としてのてんかん発作の種類等を学び、発作時の対応や指導上の配慮点について理解を図ります。</p> <p>11 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(6) 悪性新生物・ターミナル期の子ども 急性白血病を中心に小児がん(悪性新生物)の概要を学び、小児がんの子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>12 ターミナル期にある子どもの教育の実際～白血病の少女の闘病記録～ 急性白血病の子ども事例を通して、ターミナル期の子どもに対する支援の在り方について理解を深め、病弱教育に携わる教師に求められる専門性について自身の考えをまとめます。</p> <p>13 特別支援学校(病弱教育)の新たな対象～心身症・精神疾患～ 「心の病気」と言われる心身症や精神疾患の概要を学び、心身症・精神疾患の子どもの指導・支援の在り方について理解を図ります。</p> <p>14 拡大する病弱教育の対象 ～不登校、虐待～ 児童虐待や不登校の現状について理解を図り、虐待を受けた子どもや不登校の児童生徒の背景にある問題や教育的対応について考えます。</p> <p>15 病気の状態に応じた指導の工夫と現代的課題 病気や障害の状態を踏まえた各教科等の配慮事項について理解を図るとともに、特別支援教育への制度改正に伴う課題や教育の情報化、多職種連携によるチームアプローチなど、病弱教育の現代的課題と病弱教育に携わる上での心構えについて考えます。</p>
授業時間外学修(予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：参考文献や学習指導要領等で、予定されている授業内容を確認しておくとともに、関心を持った話題については各種文献やネットで調べておくこと。 復習：配付資料や学習指導要領、講義中に出題した課題、講義メモなどから授業内容を振り返り、ノートを整理することや授業で取り上げられたキーセンテンスやキーワードについて参考文献やネットで調べて理解を深めること。</p>
成績評価方法	<p>学期末のレポートの提出と毎時間の履修状況(授業の中で実施する小課題・感想文やグループワークの成果物の提出)に基づいて総合的に評価する。評価点の配分割合は、学期末レポート 60%、毎時間の履修状況 40%。大学の履修規定に基づいて評価する。</p>
教科書(購入必須)	<p>毎時間授業のレジюмеと資料を配付する。</p>
参考書(購入任意)	<p>文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部、小学部、中学部)』開隆堂出版 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引』ジァース教育新書 全国病弱教育研究会『病気の子どもの教育入門』クリエイツかもがわ 山本昌邦・島治伸・滝川国芳『標準「病弱児の教育」テキスト』ジァース教育新社 標準宮本信也・土橋圭子『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』金剛堂 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所『病気の子どもの教育支援ガイド』ジァース教育新社 全国特別支援学校病弱教育校長会『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』ジァース教育新社</p>

科 目 名	視覚障害者教育総論			
科 目 名 (英 語)	General Overview of Education for the Visually Impaired	シラバスNo.	260040740	
担 当 教 員 名	星 祐子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員は、視覚特別支援学校での30年ほどの教諭としての指導経験、8年の管理職としての経験、また通常の学級に在籍する視覚に障害のある児童の支援業務も行っていたため、これらの指導・支援の経験に基づいた講義と演習等を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・視機能の低下の要因となる病理、心理面及び生理面の特徴について説明ができる。 ・視覚障害に対する配慮事項や指導における工夫等について説明ができる。 ・全盲児童生徒の使用文字である点字や教材を知り、その特徴と工夫等を説明することができる。 ・弱視児童生徒の視覚障害に応じた配慮を踏まえた文字や教材について知り、その特徴と工夫等を説明することができる。 ・視覚の他にも障害のある幼児児童生徒に対する指導について考えをまとめることができる。 ・視覚障害における今日的課題に対して資料等をもとに意見や考えをまとめることができる。 			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>視覚に障害のある（全盲、弱視）幼児児童生徒の視機能の低下の要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、知覚や認知の特性及び教育課程、各教科や自立活動等の具体的指導内容、指導における配慮事項等について講義する。また、視覚の他にも聴覚・知的・肢体不自由等、他の障害を併せ有する幼児児童生徒に対する教育や連続性のある多様な学びの場、および交流及び共同学習等について講義する。</p> <p>これらの内容について、教育現場の状況と今日的課題が分かるような映像や資料、各種演習等を取り入れた授業を行う。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>学修者が能動的に学修できるよう、視覚障害の疑似体験や各種演習を取り入れ、適宜、それらを基にしたディスカッションを行う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害の定義、視覚器の構造と主な視機能、主な眼疾患と見え方の特徴および配慮事項 2 視覚障害の教育的アセスメント、観察評価、家庭や関係機関との連携、視覚障害乳幼児の発達の特徴と支援 3 視覚障害教育の歴史と制度の変遷、就学先決定の仕組みと教育の場について 4 教育課程の意義と編成方法、学習指導要領による視覚障害への留意事項、カリキュラム・マネジメントについて 5 自立活動の目標と指導、個別の指導計画について、キャリア教育と進路指導 6 全盲児の指導：触察指導、文字指導を中心に（演習とディスカッション） 7 弱視児の指導：視知覚の特性と配慮を中心に（演習とディスカッション） 8 視覚の他に障害を併せ有する重複障害児の指導について 連続性のある多様な学びの場における指導と配慮事項、まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 (予習) 事前に配布する資料を読んでおくこと、指定した学習指導要領の箇所を読んでおくこと (復習) 授業終了時に示す課題を行うこと</p>			
成 績 評 価 方 法	授業における取組状況（30%）、レポート課題（70%）により評価する。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>教科書はなし 事前に資料を配布し、授業内でも、適宜、プリントを配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青柳まゆみ・鳥山由子編著（2020）『新視覚障害教育入門』ジヤース教育新社 ・久保山茂樹・星祐子監修（2017）『視覚障害のある友だち 知ろう！学ぼう！障害のことシリーズ』金の星社 ・香川邦生編著（2016）『五訂版 視覚障害教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版会 ・氏間和仁編著（2013）『見えにくい子どもへのサポートQ&A』読書工房 ・特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） ・特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）

科 目 名	聴覚障害者教育総論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to special needs education for hearing disability	シラバスNo.	260040750	
担 当 教 員 名	庄司 和史			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、障害が及ぼす困難を改善・克服するための自立活動の展開、保育や教科指導等における実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。			
	アクティブ・ラーニングの内容：難聴が及ぼすコミュニケーションの障がいに関する疑似体験活動を実施し、グループでディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要の説明 聴覚障害の定義（医学モデル、社会モデルの理解）、事前課題の提出の確認と解説 2 音声学、聴覚の構造及び機能 音とは何か、聴覚障害の生理学及び病理学的理解 3 心理特性及び発達 聴覚障害が及ぼす言語・コミュニケーションの発達への影響、疑似体験を通じた理解 4 障害の早期発見と早期療育 新生児聴覚スクリーニングのシステム、医療等との連携、補聴器・人工内耳の装用支援と評価 5 教育課程の編成と指導法① 障害教育におけるカリキュラムマネジメント、聴覚障害の特性に応じた各領域、各教科の指導 6 教育課程の編成と指導法② 聴覚障害教育における自立活動、個別の指導計画、発語発音指導、聴覚学習、専門性及び個別の指導計画 7 指導の実際① 各発達段階における指導、乳幼児段階からの支援、保護者支援 8 指導の実際② 学習指導案・保育計画案の作成方法、まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：事前に配布する予習用資料を読み、障害の医学モデルと社会モデルのとらえ方を難聴と関連付けて考え、事前課題に取り組む（授業当日に課題提出する） 復習：授業計画の各項目で示した課題について、配布した資料等を参照しながら授業内容の理解を深め、最終課題（レポート作成）へ取り組む。</p>			
成 績 評 価 方 法	講義における小レポート（20 点）、提示課題の取り組み状況（20 点）、レポート課題（60 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	授業の2週間前に予習用資料を配布します。 授業全体の資料は当日配布します。			
参 考 書 (購 入 任 意)	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021			

科 目 名	重複障害・発達障害の評価			
科 目 名 (英 語)	Assessment of Multiple and Developmental Disabilities	シラバスNo.	260040760	
担 当 教 員 名	奥村 香澄			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 保育士：必修 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童家庭支援センター、市教育委員会就学支援委員会、小児科発達外来において知能検査・心理検査業務に従事経験がある。授業にて扱う知能検査・心理検査の実施手順および報告書の作成、保護者への報告について仮想事例を通して体験してもらう。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。			
受 講 の 留 意 点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、仮想事例の検討			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活 2 アセスメントの方法 フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメント 3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック、生理学的評価 4 医学的評価 脳波、脳血流量、血中酸素、染色体 5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程 6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義 7 心理検査の理解③ WISC-V、KABC-II、DN-CAS 8 心理検査の実際① WPPSI-III 9 心理検査の実際② 田中ビネー式知能検査 VI、新版 K 式発達検査 2020 10 心理検査の解釈① WPPSI-III 11 心理検査の解釈② 田中ビネー式知能検査 VI、新版 K 式発達検査 2020 12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画の策定 13 保護者支援 障害受容、療育、教育・医療との連携 14 自立支援 福祉、就労支援 15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業終了後に、forms にて授業の理解度等についての振り返りを行います。			
成 績 評 価 方 法	中間レポート (50%)、最終レポート (50%) 等で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし			
参 考 書 (購 入 任 意)	授業内で資料を適宜配付する。			

科 目 名	重複障害・発達障害の教育			
科 目 名 (英 語)	Education for Multiple and Developmental Disabilities	シラバスNo.	260040770	
担 当 教 員 名	奥村 香澄			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。			
受 講 の 留 意 点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッション、仮想事例の検討、ロールプレイ			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用 2 重複障害の教育 教育課程、指導法、自立活動 3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加、訪問指導 4 発達障害とは 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、特異性学習症 5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション 6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校 7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育、自立活動 8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知 9 SLD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、ICT の活用 10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン 11 ASD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン 12 個別の支援計画の策定 効果的な引継ぎ、特別支援教育コーディネーターの役割 13 学習指導案の策定 個別の支援、発達の観点から見た支援方法 14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労 15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業終了後に、forms にて授業の理解度等についての振り返りを行います。			
成 績 評 価 方 法	中間レポート (50%)、最終レポート (50%) 等で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし			
参 考 書 (購 入 任 意)	授業内で資料を適宜配付する。			

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導			
科 目 名 (英 語)	Pre and Post Guidance for Teacher Training (Education for children with disabilities)	シラバスNo.	260040780	
担 当 教 員 名	森田 隆行・郡司 竜平・奥村 香澄			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。 			
受 講 の 留 意 点	教育実習の意義や目的を十分に理解し、教育実習に対する意欲を高めること。 欠席・遅刻は十分に留意すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。 指導案作成や教材作成等を実際に行い、結果を共有し改善を行う。 作成した指導案に基づき模擬授業を実施し、評価改善を行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 領域・教科における指導案の作成 6 領域・教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 指導案に基づく模擬授業 10 実習前の確認事項 11 教育実習報告会① 12 教育実習報告会② 13 教育実習報告会③ 14 教育実習報告会④ 15 教育実習の振り返り 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 これまでに履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を整理し理解しておくこと。 実習後は報告する内容をプレゼンテーション資料として内容をまとめておくこと。			
成 績 評 価 方 法	提出物（学習指導案等）（50 %）、教育実習報告会の発表（50 %）により評価する。			

教科書 (購入必須)	必要に応じて資料を配布する。 「教育実習日誌 第4版」(学術図書出版社)は必ず年度当初に購入すること
参考書 (購入任意)	

科 目 名	障害児教育実習		
科 目 名 (英 語)	Teacher Training(Education for children with disabilities)	シラバスNo.	260040790
担 当 教 員 名	森田 隆行・郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		開 講 形 態	実習
		資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：◎ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。 		
受 講 の 留 意 点	教育実習の意義や目的を十分に理解し、教育実習に対する意欲を高めること。 欠席・遅刻は十分に留意すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 指導案作成や教材作成等を実際に行い、結果を共有し改善を行う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及びサービス 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通した教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>		
成 績 評 価 方 法	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80 点）と実習日誌の記載内容（20 点）で評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)			
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	保育指導論演習				
科 目 名 (英 語)	Seminar on Early Childhood Care and Education	シラバスNo.	260040800		
担 当 教 員 名	下村 一彦				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育指導論での学修を踏まえ、子どもの発達を促す保育方法について実践的な力量を身に付けることができる。 ・子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例検討やフィールドワーク、グループディスカッションを通して自ら課題解決する力を身に付けることができる。 				
受 講 の 留 意 点	グループワーク等を含めるため、欠席や遅刻等をしないこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>レポート課題に対し、能動的に調べ学習をする。 また、そのレポートについて発表し、話し合う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、グループディスカッション、フィールドワーク</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：保育指導論での学びの確認 2 保育三法令と保育内容：保育現場での位置づけ 3 保育における環境の意義 子どもの主体性と環境のつながり 4 保育者の援助の意義 子どもの意欲を引き出す遊びの導入・まとめ 5 保育における環境構成の意義① 子どもが遊びこめる室内環境の設定 6 保育における環境構成の意義② 保育に求められる環境要素と中間領域 7 保育における環境構成の意義③ 子どもの遊びが広がる環境設定の工夫 8 子ども理解に基づく保育① 実践記録に学ぶ 9 子ども理解に基づく保育② 子どもの経験と援助のつながり 10 記録の意義と内容① 写真や映像を通して子どもの経験を捉える。 11 記録の意義と内容② 保育における ICT の活用 12 保育計画の作成と保育展開① 模擬保育に向けて 13 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育① 14 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育② 15 まとめ 子ども理解と保育者の役割について 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。 復習：毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料、指針や要領を参考に学習の補完を行うこと。</p>				
成 績 評 価 方 法	授業内レポート 30 点、期末レポート 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)					

参 考 書
(購 入 任 意)

- ・大豆生田啓友他（2023）『子どもが中心の「共主体」の保育へ』小学館
- ・木村歩美・井上寿（2018）『子どもが自ら育つ園庭整備』ひとなる書房

科 目 名	家庭支援実践演習			
科 目 名 (英 語)	Practical Seminar on Family Support	シラバスNo.	260040810	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・紺野 美奈子・近藤 春香・谷口 恭子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
授 業 内 容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について事前に講義し、子育て支援の場に演習として参加する。現場の保育士から子育て支援における保育者の役割について指導を受け、実際の親子に関わりながら家庭支援における保育士の役割を実践的に学ぶ演習科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：___ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	子育て家庭を取り巻く社会的状況を学び、子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援について理解し、説明できるようになる。 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携を学び、保育士の役割について考察できるようになる。 地域子育て支援センターでの家庭支援に触れ、保育士の役割と専門性について学び、よりよい支援をできるようになる。			
受 講 の 留 意 点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター、認定こども園）での演習を行うため、日程の調整があります。子育て支援拠点、保育所、認定こども園等の子育てに関する社会資源について、事前学習が必要です。フィールドワーク後は、各自日誌による振り返りを行い、日誌の提出をもって演習の出席となります。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この演習科目では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 子育て支援拠点（地域子育て支援センター）、認定こども園でのフィールドワーク、振り返りのグループ・ディスカッション			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性 2 名寄市における子育て支援の実際 3 保育所等での家庭支援と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク（1）保育所等における家庭支援の実際 5 演習：フィールドワーク（2）保育所等に通う家庭への支援と保育士の役割を知る 6 家庭支援の実際と保育士の役割 7 演習：フィールドワーク（2）子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 8 演習：フィールドワーク（3）親子の実際を知る 9 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 10 演習：フィールドワーク（4）環境設定 11 演習：フィールドワーク（5）保護者とのコミュニケーション 12 演習に向けての準備②コミュニケーション演習 13 演習：フィールドワーク（7）保護者との関係づくり 14 演習：フィールドワーク（8）子育て支援をイメージしたかわり 15 演習の振り返りとまとめ～家庭支援における保育者の役割と専門性～ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 必修科目「子ども家庭支援論」で学んだ内容を振り返り、演習に備える 作成した記録（日誌）を通して演習内容を振り返る</p>			

成績評価方法	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×4回）と期末レポート（20点）で評価する。
教科書 （購入必須）	岡本眞幸・坂本健編著『シリーズ・保育の基礎を学ぶ⑤実践に活かす子育て支援』ミネルヴァ書房
参考書 （購入任意）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院

科 目 名	連携協働の基礎			
科 目 名 (英 語)	Fundamentals of Collaborative Work	シラバスNo.	260040820	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ○ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>IPE (専門職連携教育) は、三年間の積み上げ型教育となる。その最初の講義となる「地域との協働 I」では、①IPE の概念および本学の連携教育の特徴である「地域型 IPE」を理解し説明することが出来る②「地域との協働 II」以降地域コミュニティと連携する際の基礎となる本学の歩みと地域との関係性について理解し説明することが出来る③IPE を進める上で基礎的な能力となる、「コミュニケーション能力 (グループワークの基礎技術)」「人物や物事を先入観なく捉え、相手 (地域) に関心を持つ」能力を養成する。</p>			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>全体講義では IPE に必要な概念の理解、本学連携教育の流れについて解説した後、「地域との協働 II」以降、地域コミュニティとの連携協働の際に必要な本学と地域との関係性について、本学発展の歴史から概観する。次いで複数の教員による多様な内容のゲストトークを視聴し、先入観無く人物を捉え、多様な考え方を受け入れ・理解する素地を養う。また、相手を役職など属性ではなくひとりの「人」として捉え、感心を持つことが出来るような考え方を醸成する。IPE および IPW (多職種連携) において必須のスキルとなるグループワークの進め方について講義・演習する。</p> <p><留意事項></p> <p>本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディッド型開講を行う。また半期に 8 回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。</p> <p>講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>			
授 業 の 計 画	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>グループワークを 2 回実施予定である。IPE および IPW (多職種連携) においてグループワークは必須のスキルであるため、その進め方、参加者としての意識、注意すべき事項等についてカンファレンス演習を行う。</p> <p>1 オリエンテーションと本学のあゆみ ・オリエンテーション IPE の概念と本学連携教育の流れ ・本学の歴史的経緯と地域との関わり 地域コミュニティとの連携活動において基礎となる本学の歴史的経緯と地域との関わりについて</p> <p>2 グループワーク演習：グループワークの進め方 (オンデマンド講義：0.5 コマ) グループワークの進め方について実例を元に事前学習</p>			

	<p>3 グループワーク演習（対面講義） 先のコマで学んだグループワークの進め方を元にグループワーク演習を行う</p> <p>4 多種多様な分野の理解①（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う</p> <p>5 多種多様な分野の理解②（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う（広くて浅い関係性）</p> <p>6 ミニ演習① ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>7 ミニ演習② ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>8 まとめのグループワーク ・ ミニ演習での学びを中心的な話題としてグループワークを行う グループワーク技術の向上 学びの共有</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	

科 目 名	連携協働演習 I			
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum I	シラバスNo.	260040830	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が"その場にいる"事を示す"multi-professional"とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働演習 I では、これらの定義と全体目標に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、この IPW の基盤となる"専門職間の成熟した人間関係"を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 「連携協働の基礎」の履修を前提とする。ただし諸事情を鑑みて「連携協働の基礎」と同時受講を認めることがある。事前に連携教育委員会へ相談すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、連携協働活動実践の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際に地域系 IPE として、対人援助職としての自身の視点を持ちつつ、地域コミュニティをフィールドとした実践的活動を行う。その際二つのコアドメインである「協働する職種で患者や利用者、家族、地域にとっての重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することができる」、「職種背景が異なることに配慮し、互いに、互いについて、互いから職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことができる」および、コア・ドメインを支え合う四つのドメイン「職種としての役割を全うする能力」「自職種を省みる能力」「他職種を理解する能力」「関係に働きかける能力」について学ぶことが出来るよう、ねらいを提示する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する</p> <p>3) 連携協働活動実践から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する指導は担当教員のほか、連携協働演習 II を履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通講義により講義・演習を行う。</p> <p>自らが参加した連携協働活動実践による"一つの学び"に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p> <p>★本講義の目的は「地域をフィールドとして」連携協働活動実践を行う過程において上記の二つの目標を達成しようとするものである。地域で活動すること・交流すること・イベントに参加すること・イベントを成功させることが目的ではない。これらの活動を行う中で、成熟した人間関係を築き、共通目標を共有してそのために協働して活動できる関係性を構築できるよう、行動変容することである。手段が目的化しないように注意深く活動すること。</p> <p><留意事項> グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるた</p>			

	<p>め、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>共通講義の開講は週次では無く不定期となるため、随時メールや Moodle 等で連絡を行う。日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外におけるグループワークを行う。地域住民の方と実際に種々の活動を行う。</p>
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義方法の説明、IPE の概念復習 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受講方法（一部オンラインを含む講義・演習および連携協働活動実践） ・IPW および IPE の概念について講義を行い、今後の連携協働活動実践および共通コンテンツ理解の基盤とする 2 これから連携協働活動実践で学ぶ目的の理解：4 つのコンピテンシーの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の目標と自己評価のポイントについて解説する。コンピテンシーの考え方と具体的な到達目標、ルーブリックの使用法について学ぶ 3 連携協働活動実践の意義と目的についてとグループ分けガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の意義と目的について講義を実施する。そもそも“地域”とは何であるのか。IPE の実施フィールドとしての地域の意義、大学および地域が連携することの意義について触れながら連携協働活動実践から学生が学ぶべき目的について説明する ・連携協働活動実践を実施するにあたって、グループごとにガイダンスを実施する 目的・方法の説明および日程調整を行う 4- グループ別連携協働活動実践 11 ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする 主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する 12 グループ別連携協働活動実践のまとめ① 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動レポート） 13 グループ別連携協働活動実践のまとめ② 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動ボード） 14 共通コンテンツによる学びの拡張 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」の成果を各グループの発表・交流を通じて学ぶことで、より広く・より深い IPE を行う ・まとめで作成した活動ボード及び活動レポートを利用する 15 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施し、連携協働活動実践による学びの共有を行う。先に示した 4 つのコンピテンシーに基づいてルーブリックを用いた自己評価および学びの結果を最終レポートして提出する
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、連携協働活動実践においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（40 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。</p>

教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	

科 目 名	連携協働演習Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum II	シラバスNo.	260040840	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ○ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働の基礎、連携協働演習Ⅰにおける学びを踏まえ、①IPW (Inter-professional Work) の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>①全体講義でこれまでの連携協働活動実践を振り返り、連携実践をコーディネートするために必要な能力の整理、今後の活動目標を設定する。</p> <p>②「連携協働演習Ⅰ」の連携協働活動実践に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>③中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践してきたこと、コーディネートする上での課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>④最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p> <p><留意事項> グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用する可能性があるため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>開講形態および日時が不定期のため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外における連携協働実践、グループワークを行う。</p>			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション			

	<p>・講義方法の説明 講義の目的（自身の担える役割を増やすイメージ・連携の基礎力に加えて対象者であるコミュニティを意識する） 具体的な受講方法（全体講義および連携協働活動実践への参加、まとめのグループワークのスケジュール等）</p> <p>2 連携協働活動実践ガイダンスおよびチーム分け調整 ・連携協働活動実践を検討し、チーム分けを行う。その際、多数決ではなく、現状において誰がどのチームに属することが最適なのか話し合いで調整を行う</p> <p>3-6 グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動） ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする。主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する。活動にあたっては開講の目的である「専門職間の成熟した人間関係を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力」「共通目標を共有し、その共通目標に向かって協働するための環境づくりができる能力」について意識しながら活動を行うこと。</p> <p>7 活動内容の共有 ・中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践してきたこと、コーディネーターとしての課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>8- グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動）</p> <p>13 上記 3-6 回と同様である。</p> <p>14 グループ別活動（教員と一緒に活動・個人で準備、支援活動） ・コーディネーター役として活動するため、連携協働実践Ⅰ受講者とは別に教員との打ち合わせや活動の準備作業、連携協働実践Ⅰ参加者の支援を行う時間に充てる。</p> <p>15 最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 各活動を行うにあたって、資料の作成等事前準備を行う 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、地域活動においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（30 点）、自主企画活動日誌の提出（10 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	

科 目 名	教育実習			
科 目 名 (英 語)	Teaching practicum	シラバスNo.	260040850	
担 当 教 員 名	高島 裕美・			
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：○ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の課題を常に考え、日々目的をもって、主体的かつ積極的に保育に取り組むことができる。 ・子どもや実習施設の職員等と円滑にコミュニケーションを取ることができる。 ・観察や実際の保育を通して、ひとりひとりの子どもの特性や発達の違いを捉え、それぞれに合ったかかわりや援助ができる。 ・実習施設や子どもの実態を適切に記録することができる。 ・既習の教科の内容をふまえ、実習施設の実情や子どもの実態に合わせた指導計画および教材を作成することができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>欠席・遅刻はしないこと。</p> <p>また、実習日誌や指導案等の提出物は、実習施設の指導にしたがって期日どおりに提出すること。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象に関わることにより、保育について総合的に学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 実習</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日々の実習をふりかえり、自身の課題を明確化して実習に臨む。 2 日々の実習をふりかえり、実習施設や子どもの実態に即した目的をもって実習に臨む。 3 実習生としての適切な態度・ふるまいで実習に臨む。 4 実習全体をとおして、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取る。 5 実習全体をとおして、職員等と円滑にコミュニケーションを取る。 6 観察とその記録をとおして、子ども理解を深める。 7 観察と実際の保育をとおして、子どもの発達過程への理解を深める。 8 子ども理解をふまえた、適切な援助やかかわりをおこなう。 9 実習施設の保育理念や、保育者による援助・指導を丁寧に観察し、記録を取る。 10 子どもの姿を丁寧に観察し、記録を取る。 11 子どもの姿・実態に即して、指導計画を立案する。 12 子どもの姿・実態に即した教材を考え、計画的に準備する。 13 立案した指導計画をもとに、実際に保育をおこなう。 14 子どもの姿・実態に即した指導方法や技術を習得する。 15 自身の保育をふりかえり、立案した指導計画に対し改善策をくわえる。 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 180 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>			
成 績 評 価 方 法	<p>実習先からの評価 40%，学内評価 (日誌・指導案の提出，報告会での報告，報告資料の提出) 40%，レポート課題 20%</p>			

教科書 (購入必須)	文部科学省, 2018『平成 30 年 3 月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平, 2020『保育・教育実習 (新しい保育講座 12)』ミネルヴァ 書房 小櫃智子・田中君枝ほか, 2023『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考書 (購入任意)	

科 目 名	教育実習指導			
科 目 名 (英 語)	Guidance for Teaching Practicum	シラバスNo.	260040860	
担 当 教 員 名	高島 裕美・			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：○ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習（幼稚園）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設において遵守すべき子どもの人権の尊重・プライバシーの保護・守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。 			
受 講 の 留 意 点	実習に必要な事前指導を行うため、遅刻・欠席をしないこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	グループでのディスカッションや報告を取り入れる。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、ディスカッション			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：教育実習の意義と目的 2 教育実習に必要な視点と心構え 3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割 4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～ 5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク 6 保育における指導計画、指導案の位置づけ 7 指導計画、指導案の作成と保育の展～事例を通して 8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表 9 実習に関する諸手続き・直前指導 10 実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて 11 実習の振り返り～まとめの要点の確認 12 実習の振り返り～グループワーク1 13 実習の振り返り～グループワーク2 14 教育実習報告会（前半） 15 教育実習報告会（後半） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 実習前は、幼稚園教育要領ならびに授業に必要なテキストを読み授業に備えること。また、実習先との連絡を密に取りながら、各々実習への準備を万全に行うこと。授業後は、その内容を振り返り、まとめること。 実習後は、全体の振り返りをふまえて自己評価を行い、課題を明確にすること。			
成 績 評 価 方 法	提出物（100%）			

教科書 (購入必須)	文部科学省, 2018『平成 30 年 3 月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平, 2020『保育・教育実習 (新しい保育講座 12)』ミネルヴァ 書房 小櫃智子・田中君枝ほか, 2023『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社 (※「教育実習」と共通)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	保育実習 I			
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Practicum I	シラバスNo.	260040870	
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・滝澤 真毅・鈴木 勲			
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 			
受 講 の 留 意 点	<p>保育実習の基礎となる科目（履修 GUIDE 参照）の単位修得が前提となる（実質的に進級の未認定と同様となる場合があるので注意）。</p> <p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。指導者との振り返り、評価を通して、自己課題を明確にする。</p>			
授 業 の 計 画	<p><保育所における実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開） 2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助 3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 <p><児童福祉施設等（保育所以外）における実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応 3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 180 時間（4 単位×45 時間） うち授業時間 180 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>			
成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニмумスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018年</p>

科 目 名	保育実習指導 I		
科 目 名 (英 語)	Guidance for Early Childhood Care and Education Practicum I	シラバスNo.	260040880
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・滝澤 真毅・鈴木 勲		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。 		
受 講 の 留 意 点	<p>保育実習の基礎となる科目（履修 GUIDE 参照）の単位修得が前提となる（実質的に進級の未認定と同様となる場合があるので注意）。</p> <p>実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 模擬保育実践、グループ・ディスカッション、実習報告会での発表と討議</p>		
授 業 の 計 画	<p>保育実習指導 I 保育所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 保育実習 I 保育所の目的と概要 3 保育実習の意義・目的・内容の理解 4 保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など） 5 プライバシーの保護と守秘義務 6 実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など） 7 実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など） 8 保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど） 9 実習施設（保育所・認定こども園）の理解 10 実習に関する諸手続き（個人票の作成、検便・健診などの確認） 11 実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 実習内容の振り返り 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価） 	<p>保育実習指導 I 施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習 I の目的と概要 2 児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識希望調査 3 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院） 4 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等） 5 児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題 6 児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え 7 子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮 8 プライバシーの保護と守秘義務 9 実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認 10 事後指導 個人の振り返り 11 事後指導 グループでの振り返り 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価アンケート等 13 事後指導 評価の確認 	

	14 事後指導 課題の整理 15 実習総括	14 事後指導 課題の整理 15 実習総括
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。	
成 績 評 価 方 法	実習先理解の事前学習 20%、事前指導課題 (実習計画書) 30%、事後指導課題 (日誌の提出、自己課題の提出、報告書の提出) 50%	
教 科 書 (購 入 必 須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン (福祉施設実習編)』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 (※幼稚園教育実習指導と共通)	
参 考 書 (購 入 任 意)	一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018 年	

科 目 名	保育実習Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Early Childhood Care and Education Practicum II	シラバスNo.	260040890	
担 当 教 員 名	滝澤 真毅・傳馬 淳一郎			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確化する。 			
受 講 の 留 意 点	保育実習Ⅰおよび保育実習指導Ⅰの単位を修得済みの者。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育所において所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2)入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1)保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化 			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】			
成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%			
教 科 書 (購 入 必 須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ (※保育実習指導Ⅰと共通)			
参 考 書 (購 入 任 意)	一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018年			

科 目 名	保育実習指導Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Guidance for Early Childhood Care and Education Practicum Ⅱ	シラバスNo.	260040900	
担 当 教 員 名	滝澤 真毅・傳馬 淳一郎			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
受 講 の 留 意 点	保育実習Ⅰおよび保育実習指導Ⅰの単位を修得済みの者。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し、自ら課題を克服していくなかで保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容(実習の段階、子ども理解、保護者支援など) 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え(プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など) 6 実習記録の意義・方法(日誌の記入など) 7 保育計画、保育指導の理解 その1(園の保育計画、カリキュラムなど) 8 保育計画、保育指導の理解 その2(指導案の作成) 9 保育計画、保育指導の理解 その3(模擬保育) 10 保育計画、保育指導の理解 その4(指導案の作成と模擬保育の振り返り) 11 実習課題の明確化(欠席等の連絡方法、訪問指導などについて) 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価(事務確認を含む実習内容の振り返りなど) 13 事後指導 評価の確認(自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討) 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。			
成 績 評 価 方 法	実習先理解の事前学習 20%、事前指導課題(実習計画書) 30%、事後指導課題(日誌・指導案の提出、自己課題の提出、報告書の提出) 50%			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ (※保育実習指導 I と共通)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>一般社団法人全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』中央法規出版、2018年</p>

科 目 名	保育実習Ⅲ				
科 目 名 (英 語)	Childcare Practicum Ⅲ	シラバスNo.	260040910		
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童相談所等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。 				
受 講 の 留 意 点	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p>				
成 績 評 価 方 法	実習先からの評価 40%、学内評価(日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出)40%、レポート課題 20%				
教 科 書 (購 入 必 須)	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社（ISBN 978-4-905493-16-7）				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>授業の中で適宜、紹介する。</p> <p>和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店（ISBN-10 : 4750356514）</p>				

科 目 名	保育実習指導Ⅲ				
科 目 名 (英 語)	Childcare Practicum Supervision Ⅲ	シラバスNo.	260040920		
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：__ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
受 講 の 留 意 点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
	アクティブ・ラーニングの内容 学生主体のグループディスカッションや事例分析をとおして、保育士の専門性や職業倫理を実践的に学び、保育の実践力を高める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ① 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ② 5 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ① 6 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ② 7 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容、実習記録 8 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践① 9 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践② 10 実習前最終確認 11 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 12 事後指導 評価の確認 13 事後指導 課題の明確化 14 実習報告会① 15 実習報告会② 実習の総括 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習では、次回講義に関連する事項について、資料や論文等を利用して調べ、情報収集すること。 復習は、講義内容を振り返り、考えを深めること。				
成 績 評 価 方 法	実習先での評価 30%、提出物 70%				

教科書 (購入必須)	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 (ISBN 978-4-905493-16-7)
参考書 (購入任意)	授業の中で適宜、紹介する。 和田一郎、鈴木勲編著「児童相談所一時保護所の子どもと支援 2 版」明石書店 (ISBN-10 : 4750356514)

科 目 名	専門演習 I			
科 目 名 (英 語)	Specialized Seminar I	シラバスNo.	260040930	
担 当 教 員 名	社会保育学科教員			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input checked="" type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・例示したテーマを検討することにより、社会的視野から子育てや保育に関する課題を発見できる。 ・テーマに即した報告やそれを受けてのディスカッションを通し、他者とのコミュニケーションができる。 			
受 講 の 留 意 点	担当の各教員により別途指示する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の専門基礎演習を踏まえ、子育てや保育にかかわる例示したテーマについて、少人数での演習（文献の講読、レポート作成、ディスカッション等）を行う。 ・平和・人権・異文化理解について学ぶための合宿を行う。 			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション、レポートのプレゼンテーション、合宿の企画・運営・実施			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子育て・保育とジェンダー 2 子育て・保育と経済格差 3 平和・人権・異文化理解① 4 平和・人権・異文化理解② 5 平和・人権・異文化理解③ 6 平和・人権・異文化理解④ 7 子育て・保育と障がい児 8 子育て・保育とマルチカルチャリズム 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 次回に関わる部分や関連文献を読み、概要を把握し疑問点を整理しておく。 復習 (90 分) テキストや資料を読み返し、次に取り組む課題を整理しておく。			
成 績 評 価 方 法	少人数の演習におけるレポート等 (50 点)、合宿における授業態度 (10 点) 及びレポート (40 点) により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)				
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	専門演習Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Specialized Seminar Ⅱ	シラバスNo.	260040940	
担 当 教 員 名	社会保育学科教員			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ○ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した専門分野に関し、社会的視野から課題を発見できる。 ・テーマに即した報告やそれを受けてのディスカッションを通し、他者とのコミュニケーションができる。 			
受 講 の 留 意 点	担当の各教員により別途指示する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次の卒業研究に向け、選択した専門分野に関する少人数での演習（文献の講読、レポート作成、ディスカッション、フィールドワーク等）を行う。 ・選択した分野についての研究手法について学びながら、研究テーマの方向性を定めていく。 			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション、レポートのプレゼンテーション、フィールドワーク			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 文献講読とディスカッション① 3 文献講読とディスカッション② 4 文献講読とディスカッション③ 5 フィールドワーク 6 フィールドワーク 7 レポート作成 8 プレゼンテーションとまとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90分）次回に関わる部分や関連文献を読み、概要を把握し疑問点を整理しておく。 復習（90分）テキストや資料を読み返し、次に取り組む課題を整理しておく。			
成 績 評 価 方 法	授業態度及びレポート提出により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	担当の各教員により別途指示する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	卒業研究		
科 目 名 (英 語)	Graduation Research	シラバスNo.	260040950
担 当 教 員 名	社会保育学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単位
開 講 時 期	通年	必修選択	必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>◎</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u>		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的、論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明確にすることができる。 ・四年間の学びを踏まえて設定した研究テーマに基づき、卒業論文を作成することができる。 		
受 講 の 留 意 点	卒業研究に関わるガイダンス及び研究室紹介は、3年次の「専門演習Ⅱ」に関するガイダンスで行うので、掲示等による指示に従うこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>科学的・論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明らかにし、四年間の学習・演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を行う。担当教員の指導のもと、研究計画書の作成から論文作成、発表までの過程について学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループ・ディスカッション、各種調査、プレゼンテーション</p>		
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究に関するオリエンテーション ・卒業研究課題の決定 ・研究計画の作成 ・調査、研究の実施 ・データの整理および分析 ・卒業論文の本文作成 ・卒業論文の提出および発表 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 120 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (45 分) 文献講読やフィールド調査、論文執筆等、前回授業で確認された課題に取り組む。 復習 (45 分) 授業の中での検討を振り返り、調査等の補足、記述の修正等を行う。</p>		
成 績 評 価 方 法	取り組み状況、卒業論文及び発表の内容により総合的に評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	担当の各教員により別途指示する。		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	教職・保育実践演習				
科 目 名 (英 語)	Seminar on Teaching and Early Childhood Care and Education Practice		シラバスNo.	260040960	
担 当 教 員 名	石本啓一郎・鹿嶋桃子・菊池稔・高島裕美・滝澤真毅・傳馬淳一郎・堀川真・三川美幸・三井登				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用い、1年次から4年次までの学修内容を省察することで、教員および保育者として必要な専門性について自ら考え、言語化することができる。 ・この省察をとおして、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を探り、言語化することができる。 				
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。 ・これまでの4年間の学修内容について、自ら振りかえろうとする主体的な受講態度が求められる。 				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>現場に出向き実践者から学ぶフィールドワーク、学生主体のシンポジウムの開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振りかえり、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見できるようにする。</p> <p>教員および保育者に求められる資質ともつながるディプロマポリシー（①尊厳と権利・社会的視野 ②多様な子どもの理解 ③子どもの発達・身体と感性 ④関係構築力 ⑤連携・協働）について、全15回を通じて総合的に学修する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 フィールドワーク、教室でのグループディスカッション、ディベート</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン：4年間の学修を捉えなおす授業としての位置付け 2 「社会保育」を考える（1）領域横断講義 社会編 3 「社会保育」を考える（2）領域横断講義 臨床編 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）フィールドワーク事前準備 9 保育と地域とのつながりを考える（2）フィールドワーク 10 保育と地域とのつながりを考える（3）フィールドワーク総括 11 4年間の学びを振りかえる（1）シンポジウム企画 12 4年間の学びを振りかえる（2）シンポジウム事前準備 13 4年間の学びを振りかえる（3）4年生最終シンポジウム 1日目 14 4年間の学びを振りかえる（4）4年生最終シンポジウム 2日目 15 活動・学修内容のまとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の活動に臨むのに先立って、活動のねらいや自分なりの課題を、ワークシートへの記載をとおしてあらかじめ明確にしておく。 ・各回の活動をとおして新たに身に付けたことや克服した課題について、ワークシートに記載し、振り返る。 				

成績評価方法	各回の活動や学修内容をまとめるワークシート(80%),各回の活動や学習内容をまとめる提出課題(20%)
教科書 (購入必須)	特に指定しない。
参考書 (購入任意)	内容に応じて, その都度指示・提示する。